

中沢浜貝塚歴史防災公園
整備基本計画策定業務

報告書

平成26年3月

陸前高田市

**中沢浜貝塚歴史防災公園
整備基本計画策定業務**

報告書

平成26年3月

陸前高田市

目次

序章 業務概要	1
1. 業務の目的	1
2. 業務概要	1
3. 計画地の位置及び面積	2
4. 業務フロー	4
第1章 現況の把握	5
1. 陸前高田市の概要	5
2. 中沢浜貝塚を取り巻く状況	16
3. 計画地の現況	28
第2章 整備課題の整理	34
第3章 公園整備基本方針	36
1. 整備の基本的考え方	36
2. 計画の基本理念	37
第4章 公園整備基本構想	39
1. 土地利用計画	39
2. 動線計画	39
3. 基本構想図の作成	42
第5章 公園整備基本計画	44
1. 基本計画図の作成	44
2. 整備イメージの検討	46
第6章 整備スケジュール等	58
1. 整備スケジュール	58
2. 今後の展望	58
資料編	
§1 委員会等の目的	資1
§2 ワークショップ開催概要	資5
§3 検討委員会開催概要	資33
§4 指導委員会開催概要	資41

序章 業務概要

1. 業務の目的

国指定史跡中沢浜貝塚は、灰田半島の西側丘陵上に位置し、眼下には灰田湾が広がる。縄文・弥生・平安時代の長期間に渡り、ここが人々の生活の場であったことは明治40年を嚆矢とする発掘調査でも確認されている。

このような調査により多くの人骨が見つかっており、人類学の発展に大きく貢献した。それとともに、豊かな海を背景として広い範囲に貝塚が残され、膨大な量の土器や石器、また本貝塚の代名詞ともいえる多種多様な骨角器が出土するなど、重要な発見がなされている。

このため、保存管理計画の策定、土地公有化、範囲確認調査、緊急発掘調査等を行い、適切な管理と学術研究を進めるとともに、地域振興と一体化した歴史公園を目指した整備と活用についても、市民を交えて検討を重ねてきた。また、当地域は東日本大震災により被害を受けた地域であり、地域住民の緊急避難先の必要性が高まった。このような状況から市民の意見を取り入れた史跡整備を進めつつ、防災機能を付加した歴史防災公園として整備するに至ったものである。

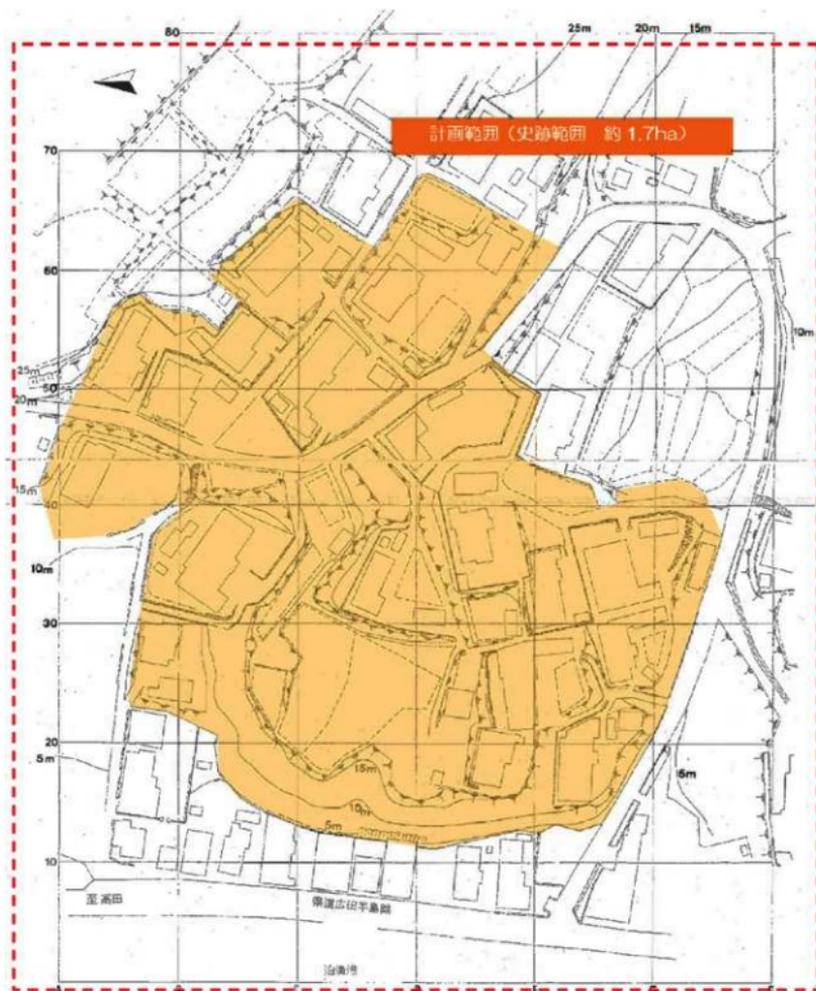
2. 業務概要

業務の概要は次のとおりである。

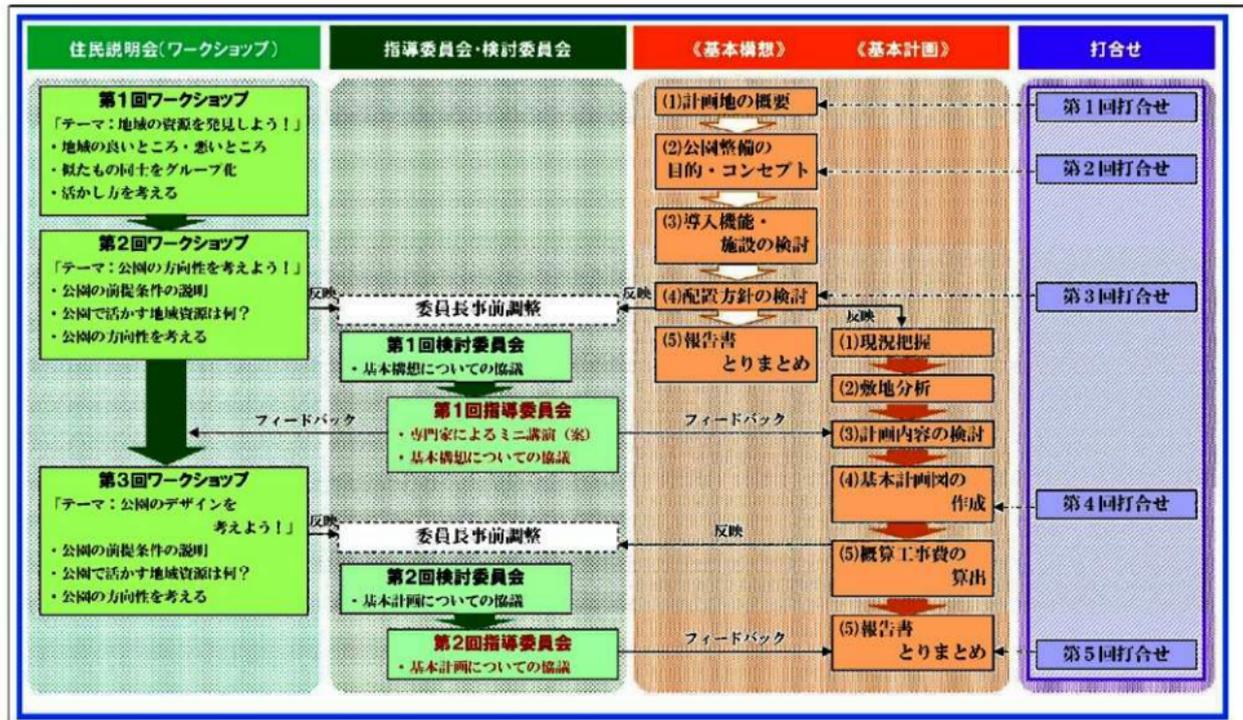
- (1)業務委託名 中沢浜貝塚歴史防災公園整備基本計画策定業務
- (2)工期 自)平成25年6月25日～至)平成26年3月24日
- (3)業務項目
 - 1) 検討委員会および指導委員会の運営
 - 2) 基本構想の策定
 - 3) 基本計画の策定
 - 4) 住民説明会の実施
- (4)発注者 陸前高田市 教育委員会生涯学習課
- (5)受注者 株式会社 協和コンサルタンツ 東日本支社

(2) 計画地の範囲

計画範囲は、史跡範囲の約1.7haであり、以下のとおりである。



4. 業務フロー



第1章 現況の把握

1. 陸前高田市の概要

(1) 上位、関連計画

①陸前高田市震災復興計画

震災復興計画は、東日本大震災からの復興ビジョンを最上位の計画で、陸前高田市の場合、基本構想、基本計画で構成される。

基本構想は、まちづくり目標を示したもので、その目標の達成に向けた施策と整備目標を体系的に明らかにした基本計画を定め、復興に向けたまちづくりを計画的に進めるものである。

以下に内容を抜粋する。

項目	内容
目標年次	平成30年度
基本目標	「海と緑と太陽との共生・海浜新都市」の創造
復興まちづくりの目標	<ul style="list-style-type: none"> ●災害に強い安全なまち ●快適で魅力のあるまち ●市民の暮らしが安定したまち ●活力あふれるまち ●環境にやさしいまち ●協働で築くまち
広田半島地区について	<p>■広田半島地区・海洋型スポーツ・レクリエーション拠点の形成 【整備方針】</p> <p>広田半島地域の自然特性などを踏まえ、海洋型の野外活動センターの整備促進を図るとともに、防災拠点機能等を併せ備えた施設の整備など、海洋型スポーツ・レクリエーション拠点の形成を図ります。</p> <p>【整備目標】</p> <p>広田海水浴場に隣接する地域に、県立高田松原野外活動センターの移設整備を促進するとともに、海洋型野外活動の機能や集団宿泊研修機能、防災拠点機能等を併せ備えた施設の整備を促進します。</p> <p>■地区コミュニティ別居住地域の再生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海岸保全施設等の整備に応じて、住民意向に対応した高台移転等を促進するとともに、漁家の生産活動等に配慮しながら、集落の再生を図ります。 ・主要地方道大船渡・広田・陸前高田線の付替え整備や海岸からの避難道路の整備を促進します。 ・コミュニティセンター、広田診療所、広田保育園、消防屯所等の公共・公益施設は、高台への移転整備を図るとともに、あわせて健康センターや介護施設の整備を検討します。 ・中学校の整備は、適正規画化計画にあわせて検討します。 ・高台移転にあわせた集合住宅の整備を検討します。 

資料：陸前高田市復興計画ホームページ

②国指定史跡「中沢浜貝塚」保存管理計画書

中沢浜貝塚が昭和9年1月に国史跡に指定されて以来、保護対策の遅れが課題となっていたため、史跡として適切に保存管理するための施策を定め、総合的かつ計画的な運用を推進することを目的に策定された。

以下に内容を抜粋する。

項目	内容
策定年次	平成10年度
保存管理計画策定の基本理念	<p>●史跡の保存</p> <p>史跡保存の原則に立ち、現状以上の史跡の改変を防ぐとともに、土地の公有化を推し進め、史跡の積極的な保護及び保存を図る。</p> <p>●史跡の普及</p> <p>公開講座や出土資料の展示を行い、史跡への理解を深めながら、郷土の誇りとして史跡の重要性の普及を図る。</p> <p>●史跡の調査・研究</p> <p>三陸沿岸の優れた漁撈(魚類や貝類を捕ること)文化を示す出土品が多く見られるため、出土遺物を体系的に把握し、史跡の調査・研究をすすめる、中沢浜貝塚の意義の高揚に努める。</p> <p>●史跡の公開・整備・活用</p> <p>史跡は保存するだけでなく、積極的に活用してはじめて現代的意義を有するようになる。史跡を訪れる人々が悠久な歴史を感じ、憩える場として整備し、活用していくことが求められている。中沢浜貝塚についても、市民をはじめ多くの人々が楽しめる史跡公園の整備を図る。なお、整備計画は別途に策定する。</p> <p>(国指定史跡「中沢浜貝塚」保存管理計画書 P17～18より抜粋)</p>

資料：国指定史跡「中沢浜貝塚」保存管理計画書（平成11年2月）

③中沢浜貝塚史跡公園整備基本構想（震災後に策定）

中沢浜貝塚について、保存管理計画の策定、土地公有化、範囲確認調査、緊急発掘調査等を行い、適切な管理と学術研究を進めるとともに、活用についても検討を重ね、史跡公園としての整備するため、基本構想を策定した。

以下に内容を抜粋する。

項目	内容
史跡公園整備事業の理念	テーマ「海・人・歴史」
史跡公園整備の方針	<ol style="list-style-type: none"> 日本の考古学や人類学の発展に大きく寄与した史跡として、今後も調査研究を継続させながら、適切に保存する。また、中沢浜貝塚では縄文時代早期から弥生時代、奈良・平安時代の各時代の人々の生活の痕跡が確認されていることを踏まえ、海と当時の人々のくらしをテーマとした公園整備を行い、当時の遺構等を再現する。さらに、海への良好な眺望を生かしながら、当時の地形や植生を復原し、海とともに生きた人々のくらしを体感できる空間づくりを進める。 当時の人々のくらしを体感するとともに、史跡を学習する場としてガイダンス施設を設置する。また、ガイダンス施設を中心とした海にくらしした人々の生活を体験できる活動等のソフト事業を行うことにより、史跡の理解の促進を進める。 市民が「わたしたちの史跡」という誇りを持てるよう、行政と市民がともに活用・運営を図る公園整備を行い、史跡公園を通した市民の文化活動を促進し、市内外の人々との交流を進める。 三陸沿岸部の貝塚が東日本大震災・津波で被災しなかったことに鑑み、中沢浜貝塚を周辺漁港等からの緊急避難場所とし、その機能を充実させるために避難路や防災備品の保管施設等を設置し、災害時対応機能を付加した公園整備を進める。
整備の進め方	<p>整備の完了までの工程を第1段階整備と第2段階整備とし、防災公園の機能と史跡公園の機能についてそれぞれを重視した内容の整備を行う。</p> <p>(1)第1段階整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災公園の機能を重視した施設整備 <p>(2)第2段階整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・史跡公園の機能を重視した基盤整備、施設整備

資料：中沢浜貝塚史跡公園整備基本構想

④東日本大震災に係る鎮魂及び復興の象徴となる都市公園のあり方検討業務報告書
(平成24年3月 国土交通省 都市局)

学識経験者から構成される「震災復興祈念公園基本構想検討会」における共通認識としてとりまとめられた報告書である。

以下に巻頭にある「震災復興祈念公園のあり方」の中から内容を抜粋する。

項目	内容	
策定年次	平成23年度	
震災復興祈念公園のあり方	<p>立地：地域の発意を踏まえつつ、被災の全容を象徴しているなど、国民全体が今次震災の惨事を歴史的に共有するとともに震災の犠牲者への追悼と鎮魂に思いを寄せ、後世に伝承することがふさわしい場所に立地することが望ましい。</p> <p>機能：① 被災の犠牲となった全ての命に対する追悼と鎮魂の場の設置 ② 復興への意志と決意を国内外に宣言するとともに、復興後の我が国の姿を想起させるなど、復興を祈念する場の設置 ③ 被災の実情とその教訓を広く国内外に伝え、後世に伝承する場の設置</p>	
	<table border="1"> <tr> <td> <p>震災復興祈念公園の意義からみた公園緑地の役割</p> <p>「追悼・鎮魂」</p> <p>「災害の記録・教訓の伝承」</p> <p>「復興の象徴」</p> </td> <td> <p>復興まちづくり等から求められる役割</p> <p>「地域の活性化」 (新たな魅力の創出等)</p> <p>「防災・減災」 (防災・減災の標識、情報発信等)</p> </td> </tr> </table> <p>震災復興祈念公園の5つの役割</p> <p>図 震災復興祈念公園の5つの役割</p>	<p>震災復興祈念公園の意義からみた公園緑地の役割</p> <p>「追悼・鎮魂」</p> <p>「災害の記録・教訓の伝承」</p> <p>「復興の象徴」</p>
<p>震災復興祈念公園の意義からみた公園緑地の役割</p> <p>「追悼・鎮魂」</p> <p>「災害の記録・教訓の伝承」</p> <p>「復興の象徴」</p>	<p>復興まちづくり等から求められる役割</p> <p>「地域の活性化」 (新たな魅力の創出等)</p> <p>「防災・減災」 (防災・減災の標識、情報発信等)</p>	
	<p>(東日本大震災に係る鎮魂及び復興の象徴となる都市公園のあり方検討業務報告書)</p>	

(2) 立地特性

- ・ 陸前高田市の歴史は古く縄文時代から優れた文化を有する生活圏が形成されていた。
- ・ チリ地震津波や東日本大震災等の津波により甚大な被害を受けた。

①広域的立地特性

陸前高田市は、岩手県の東南端、三陸海岸の南玄関口として、大船渡市、住田町、一関市、宮城県気仙沼市に接し、宮城県との県境に位置している。

本市の歴史は古く、中沢浜貝塚の史跡が発見されているように縄文時代から優れた文化を有する生活圏が形成されていた。都市としての成り立ちは、平安時代の初期とみられ、金と塩、海産物が経済の根幹を成していた。特に金は、奥州藤原氏の黄金文化に大きな役割を果たした。

鎌倉から室町時代末期には、葛西氏が統治し、伊達政宗の直轄領となる藩政時代は、気仙郡今泉村に大肝入会所や代官所が設置され、気仙地方の政治経済の中心として栄えた。

明治以降では、明治22年の町村制実施により、1町8ヶ村となり、その後昭和30年の町村合併促進法に基づき、高田、気仙、広田の3町と小友、米崎、矢作、竹駒、横田の5村が合併し陸前高田市として誕生した。

市制施行以来、農林業、水産業主導型の都市として、また、恵まれた自然環境を活かした観光都市として成長してきたが、昭和35年のチリ地震津波、平成23年の東日本大震災の津波により甚大な被害を受けた。



図1 陸前高田市及び中沢浜貝塚の位置

(3) 自然特性

- ・ 陸前高田市は、北上山地の東南部の海沿いに位置しており、三陸特有のリアス式海岸は津波、高潮の被害を受けやすい地形である。
- ・ 気温は概して温暖である。
- ・ 地質は、気仙川西部に広がる古生代の石灰岩地帯、気仙川東部に広がる花崗岩地帯、気仙川等による土砂堆積によって作られた沖積層に大別される。

①地勢・気象概況

北上山地の東南部に位置し、北境に生出山、東境に氷上山、箱根山、南境に八森平山、笹長根山、西境に原台山、黒森山の諸峰がそびえている。この間を気仙川が北から、矢作川が西から流れて市の中央部で合流し、東南に歩いて広田湾にそそぎ、その流域に作られた段丘や平地は市街地や耕地となる計画である。東南が太平洋に面し、三陸特有のリアス式海岸は絶壁と屈曲とによる奇勝を形成しているが、津波、高潮の際は常に被害を受けやすい地形である。

気温は、県内では最も温暖で、天然の椿、真竹が至る所に繁茂し、野生の椿が真冬に咲くほどであるが、初夏には寒流の上を渡って来る北東風のため沿岸部に濃霧が発生し、冬季はアジア大陸から気圧の影響により北西の季節風が強く吹く。

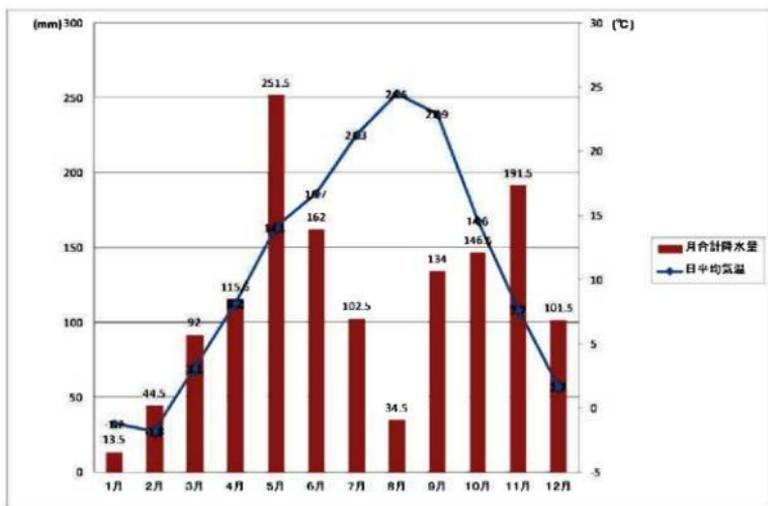


図 1-2 陸前高田市の月別平均気温と降水量 (2012年)

資料：気象庁ホームページ

②地質概況

市域のほぼ中央を北から南に気仙川が流れ、広田湾に注ぎ、市域を東西に分けている。気仙川に沿って、遠野 高田断層線が考えられる。市域の西端には、日詰 気仙沼断層線があり、市域ではあまり明確に見られないが、小股断層線が考えられる。地質は、気仙川右岸（気仙川西部）に広がる古生代の石灰岩地帯、気仙川左岸（気仙川東部）に広がる花崗岩地帯、気仙川等による土砂堆積によって作られた沖積層に大別される。気仙川右岸の石灰岩地帯は、古生代の石炭紀及びペルム紀のもので、硬い岩塊をなし、気仙川支流の侵蝕によって若干の平地が形成されているが、ほとんど山地で覆われている。気仙川左岸の花崗岩地帯は、古生代のものである氷上花崗岩と広田半島を形成する中生代に貫入したものがあり、硬い岩塊をなしている。沖積層は、現高田市街地を形成する

高田平野や、小友町三日市の干拓地などに見られ、軟弱な地形をなしている。

(4) 社会特性

- ・ 平成 22 年国勢調査時点（震災前）の陸前高田市の人口は 23,300 人だが、平成 24 年は 19,707 人となっている。
- ・ 増加傾向だった世帯数も平成 22 年は減少した。
- ・ 高齢者人口が増加しており、3 人に 1 人が高齢者となっている。

①人口、世帯数

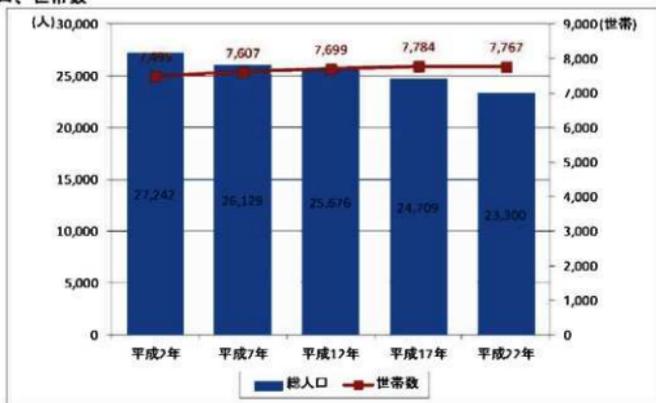


図 1-3 陸前高田市の人口推移（資料：国勢調査 平成 2 年～平成 22 年）



図 1-4 陸前高田市の人口推移（資料：国勢調査・岩手県毎月人口推計）

- (注) 1 平成 17 年及び平成 22 年は国勢調査による数値である。
 2 平成 15 年～平成 16 年、平成 18 年～平成 21 年及び平成 23 年～平成 24 年は岩手県毎月人口推計による数値である。

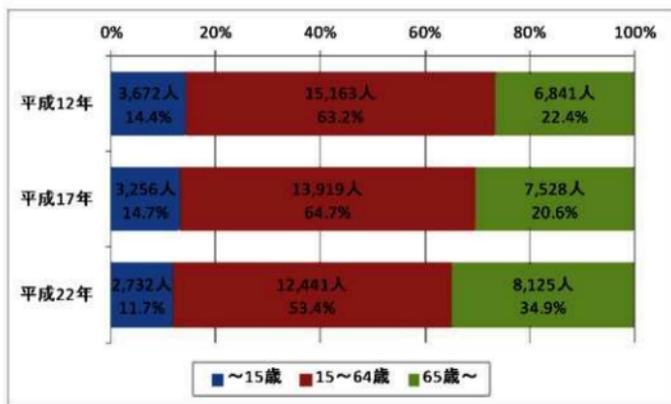


図 1-5 年齢3区分別人口 (資料: 国勢調査 平成12年~平成22年)

注) 年齢不詳の人口は含まれていない。

陸前高田市では、市内を8つの行政区に区分している。

中沢浜貝塚は、広田地区に位置しており、人口は3,553人、世帯数は1,097世帯である。

1世帯あたり人員は、3.24人/世帯と市内では最も多くなっており、三世帯世帯等が比較的多いと考えられる。

表 1-1 陸前高田市の行政区ごとの人口・世帯数

	男 (人)	女 (人)	合計 (人)	世帯数 (世帯)	1世帯あたり人員 (人/世帯)
矢作町	923	982	1,905	693	2.75
横田町	823	854	1,677	600	2.80
竹駒町	800	897	1,697	626	2.71
気仙町	981	1,046	2,027	720	2.82
高田町	2,334	2,576	4,910	2,079	2.36
米崎町	1,405	1,468	2,873	1,031	2.79
小友町	955	1,065	2,020	696	2.90
広田町	1,721	1,832	3,553	1,097	3.24
合計	9,942	10,720	20,662	7,542	2.74

(陸前高田市 WEB ページ 平成25年6月30日現在)

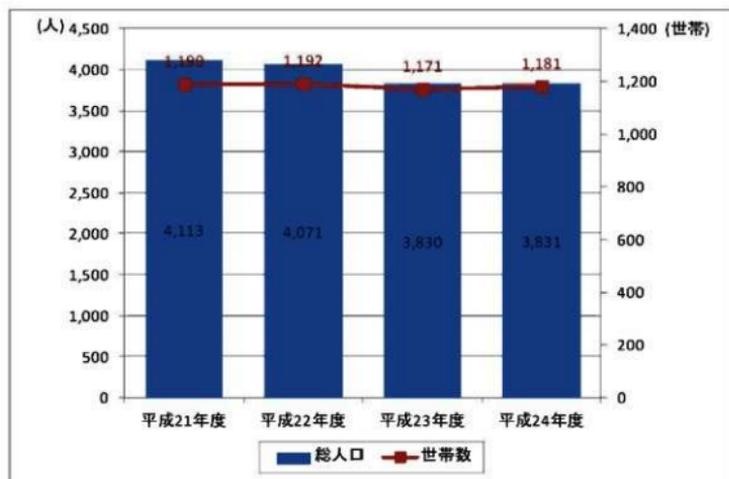


図16 広田町地区の人口推移 (資料: 住民基本台帳)

②観光

陸前高田市のおもな年中行事・イベント、及び観光地は次の通りとなっており、震災前の8月には30万人近くの観光客が訪れていた。

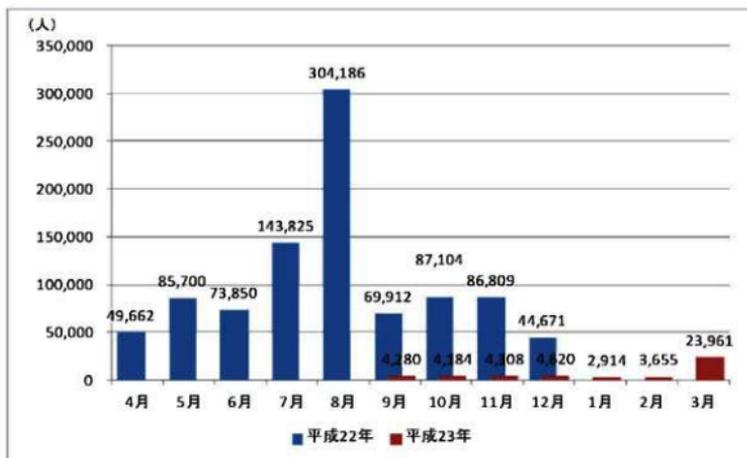


図1-7 陸前高田市の観光客数（資料：いわての観光統計 H22.1～H23.8 データなし）



けんかセタまつり（毎年8月7日）



うごくセタまつり



全国太鼓フェスティバル



横碑梯子虎舞

図1-8 市内で開催されている主なまつり

2. 計画地を取り巻く状況

(1) 史跡整備について

「史跡」は、学術上価値のあるものを文化財保護法にもとづき、適切な保存と活用を図るために指定するものである。

「史跡整備」は、史跡の適切な「保存」・「管理」を行うための施設の設置及び復旧・修理を始め、適切な「公開」・「活用」する上で必要となる遺跡の表現、修景、便益等の諸施設の設置をも含めた総合的な行為と位置づけられている。

・史跡整備にかかる施設

a. 保存を目的とした施設

- 保存・管理施設 標識・説明板・境界標・囲い・覆屋等
- 防災施設

b. 活用を目的とした施設

- 環境基盤整備
- 地盤整備・・・地下遺構の良好な保存状態維持のための切り土造成、排水施設
- 修景・・・・・・史跡の快適な環境創出のための植栽等
- 環境保全・・・周辺環境を良好に保つための景観の創出
- 遺跡の表現
 - ・地形復元・・・・・・史跡等のかつての地表面の起状を復元的に造成
 - ・植生復元・・・・・・植物遺存体の同定に基づき植生を復元的に造成
 - ・遺構展示・・・・・・地下に埋蔵されていた遺構の情報を造成面において平面的・立体的に表現
 - ・解説展示施設・・・情報を伝達する説明版・案内板及び地形模型及び遺構模型等の展示施設

c. 管理・運営及び公開・活用にかかわる施設

- 公開・活用施設
- 便益施設
- 体験学習施設
- 維持管理施設
- 管理運営の建物

資料：「史跡等整備のてびき」（文化庁文化財部記念物課監修）

(2) 中沢浜貝塚の概要

①遺跡の概要

市内に遺跡は260ヶ所あるが、縄文時代中期～平安へと続く複合遺跡は、中沢浜貝塚のみであり、保存状態も良好で、論文も多くあり、人類学・考古学研究史上、看過できない史跡となっている。

<縄文時代早期> (10,000～6,000年前頃)

- ・氷河期が終わり、海進がすすみ海岸線が大きく変容した時期。
- ・貝層は、南斜面において発見。時期は早期末のもので、貝層はイガイなどの貝を少量含む混貝土層を主体としているが、一部、純貝層も見られる。
- ・人骨は、新生児骨1体が発見されている。早期末葉の土器が伴出している
- ・副葬品は、新生児骨には、不定形石器1点。

<縄文時代前期> (6,000～5,000年前頃)

- ・自然条件もよくなり、食料も増え、より生活が安定してきた時期。人口も増加した。
- ・出土している土器は、大木1～6式土器があるが、大木3式ものは、県内ではめずらしい。
- ・貝層は、大木4式・6式のを発見している。大木4式ものは旧領の南北両斜面の地表下3mの地点において検出しており、保存状況も良好である。大木6式ものは、地表下50cmの南北両斜面において検出している。北斜面のものは、広範囲に分布しており、上位には大木10式の貝層が堆積する。南斜面のものは、層の範囲は不明であるが、上位には縄文末期の貝層が堆積。
- ・大木6式の貝層より、50cmほどのマグロの魚骨層を検出している。追い込み漁等によるマグロの大量捕獲が推定され、このような大規模なマグロの魚骨層は、大船渡市にある蛸の浦貝塚の縄文中期の貝層からも発見されている。
- ・大木4式の貝層から釣針が出土している。
- ・骨角器は、装身具が多く見られ、オオヤマネコ、イタチザメ製の垂飾り等、特殊な動物の骨等を利用したものが多い。

<縄文時代中期> (5,000～4,000年前頃)

- ・極めて保存の良い屈葬の成人女性骨1体（出産経験あり）、副葬品として、琥珀性の小玉3点、石靴2点が発見されている。
- ・出土した土器は、大木7a～10式までである。
- ・貝層は南北両斜面において検出されている。北斜面のものは、層の厚さが1m以上にも達しているが、南斜面のものは厚さ不明である。
- ・北斜面において、大木7a～10式の時期の魚骨層を検出している。
- ・骨角器では、仙台湾～大船渡湾特有の鏝型釣針・軸頂部が鳥口形の釣針等、多数出土している。
- ・軸頂に石器がアスファルトで固定された鉤状骨器等、国内においてもめずらしい骨角器の出土がある。

<縄文時代後期> (4,000~3,000年前頃)

- ・土器は、前葉～後葉のものが出土している。
- ・貝層は、北斜面において検出しているが、概要は不明である。また、貝層を伴うフラスコピットを丘陵鞍部において検出している。

<縄文時代晩期> (3,000~2,300年前頃)

- ・土器は、大洞B式～A'式のものが出土している。
- ・貝層は、南側斜面で検出されているが、厚さは20cmほどと薄い。
- ・貝層中より、数百点におよぶ多量の骨角器が出土しており、釣針・鋸頭等、すぐれた漁撈技術を示す骨角器が多数含まれる。
- ・この時期の貝層は、明治40・41年に、野中完一によって発掘調査が行われ、人骨23体が発見され、日本で初めて以下の発見・知見を得ることができた。
 - 縄文時代晩期には墓域が形成されていたことが判明。
 - 日本で初めての壟棺に埋納した人骨の発見。
 - 日本で初めての貝輪を装着した状態での人骨の発見。
 - 日本で初めての赤色人骨の発見。
- ・陸前高田市教育委員会で行った発掘調査では、壟棺に埋納された新生児骨2体と埋葬犬3体、埋葬された成人骨2体が発見されている。

<弥生時代>

- ・ある程度まとまった形で層位的に弥生時代の遺物が出土している。しかし、これまでに発見された弥生時代の遺物は、土器・石器であり、稲作との関わりを示すものではない。
- ・遺跡は砂に覆われた丘陵上に立地し、平地に乏しく、また水利も不便であり米づくりを可能にする条件が整ってなかったものと考えられる。中沢浜貝塚をはじめ広田半島にある多くの遺跡の生業は、海に大きく依存する生産形態をとっていた可能性もある。
- ・この時代の人骨は発見されていないが、壟に埋納された状態で人の歯1点が出土しており、この時代のものと思われるウシの歯1点も出土している。

<古代(奈良・平安時代)>

- ・少量ながら平安時代の土師器片と須恵器片が発見されている。
- ・鉄製の釣針3点が出土している。

資料：国指定史跡「中沢浜貝塚」保存管理計画書（平成11年2月）

②歴史防災公園として整備するに至った経緯

これまで、保存管理計画の策定、土地公有化、範囲確認調査、緊急発掘調査等を行い、適切な管理と学術研究を進めるとともに、地域振興と一体化した歴史公園を目指した整備と活用について、市民を交えて検討を重ねてきた。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、この地域が壊滅的な被害を受け、地域住民の緊急避難先としての必要性が高まったことから、市民の意見を取り入れた史跡整備を進めつつ、防災機能を付加した歴史防災公園として整備するものである。

(3) 周辺の道路計画

①県道整備計画

東日本大震災を受けて、県道の付け替え等が予定されている。

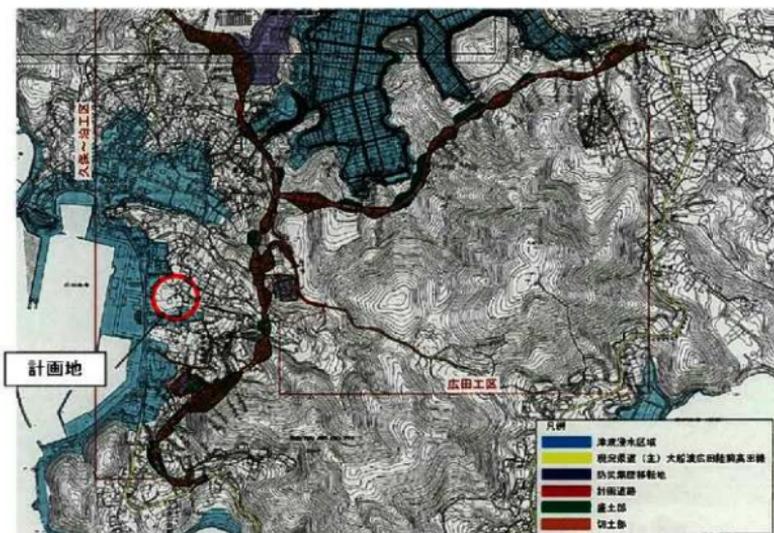


図1-9 県道整備計画

資料：陸前高田市（平成25年10月現在）

(3) 遺跡としての位置づけ

①東北地方における縄文遺跡の中での位置づけ

縄文時代の遺跡は、東日本に数多く分布している。これは現在よりも気候が温暖であり、野生動植物の資源量が豊かな東日本のほうが西日本よりも安定した生活が営まれていたためと考えられている。

国指定史跡は、全国で1650件、岩手県で26件。

東北地方においても縄文時代の遺跡は多数発見されており、豊かな文化が花開いていた。東北地方における縄文時代の主要な遺跡としては、以下に示す遺跡が挙げられる。



図111 東北地方の主要な縄文遺跡

資料：「図説日本の古墳・古代遺跡」平成20年4月、学習研究社

表1-2 東北地方の主要な縄文遺跡の概要

青森県	三内丸山遺跡 (青森市)	三内丸山遺跡は、青森市の中央部を北東へ抜けて青森湾に注ぐ沖館川の右岸台地上に営まれた、35haに及ぶ縄文時代前・中期の大規模遺跡である。
	種別	特別史跡
	指定年月日	平成9年3月5日 (特別指定年月日 平成12年11月24日)
	亀ヶ岡遺跡 (つがる市)	亀ヶ岡遺跡は日本最大級の縄文時代晩期の遺跡である。亀ヶ岡文化の中核と考えられており、透光器土偶やヒスイ、もみがら、炭化米、漆塗り彩文土器などが出土している。
	種別	史跡
	指定年月日	昭和19年6月26日
岩手県	是川遺跡 (八戸市)	中居遺跡、一王寺遺跡、堀田遺跡の3つの遺跡の総称で、それぞれが考古学史上名高い縄文遺跡である。特に中居遺跡からは、弓、へら形木製品、新輪、くし、耳飾り、磨治漆器や鉢、高坏などの植物質素材の出土品が多く発見されている。
	種別	史跡
	指定年月日	昭和32年7月1日
	御所野遺跡 (一戸町)	この地域を縫うように北に流れる馬淵川の右岸に位置し、標高約190～200mの中段段丘上に立地する。広い所で幅120mほどの平坦な台地が、東から北へ強状に500mほど続き、台地上の平坦面は約6haの広がりをもつ。
	種別	史跡
	指定年月日	平成5年12月21日
宮城県	榊山遺跡 (上北市)	集落跡と配石で構成された、縄文時代中～後期の遺跡。榊山遺跡の配石は中央に細長い河原石を立て、周囲を平たい山石や河原石で囲んだタイプで、合計37基が確認されている。
	種別	史跡
	指定年月日	昭和52年7月14日
	里浜貝塚 (前期-晩期、栗山島市)	中央に位置する湾内最大の島である宮戸島に、3集団がそれぞれの領域をもって拠点集落を営んでいた。東岸の集団は、大木園貝塚から2月田貝塚、西岸の集団は遺珍浜貝塚から西ノ浜貝塚に拠点集落を移し、宮戸島には里浜貝塚が継続して営まれていた。
	種別	史跡
	指定年月日	平成7年2月14日
山田上ノ台遺跡 (縄文の森広場)		昭和55年に発見された縄文時代の遺跡。竈穴住居や複式炉、貯蔵穴、墓、落とし穴、ごみ捨て場などの他にも土器を焼いた穴、粘土を採取した穴なども見つかっている。以上の遺構や地層からは多量の縄文土器をはじめ、狩猟用・調理用の土器、土偶や耳飾りなども見つかっている。
	種別	
秋田県	大湯環状列石 (後期、鹿角市)	国造をへだてて2箇所に河原石の敷列による遺構が存在する。東側にあるものは小字野中堂に西側にあるものは小字万座に属する。いずれも列石帯がほぼ環状にめぐらされているもので、遺帯として明かに認められるものは内外の二重であるが更に中心部に列石がたどられる。野中堂遺構は外徑約40米内外、万座遺構は外徑約40数米内外を算する。
	種別	特別史跡
	指定年月日	昭和26年12月26日 (特別指定年月日: 昭和31年7月19日 追加指定年月日: 平成13年6月13日)
福島県	宮畑遺跡 (福島市)	縄文時代中期の痕失住居跡、後期の敷石住居跡など、縄文時代中期から晩期までの数多くの遺構が発見され、縄文時代の集落跡の存在が想定された。
	種別	史跡
指定年月日	平成15年8月27日	

資料:「図説日本の古墳・古代遺跡」平成20年4月、学習研究社
国指定文化財データベース、平成21年11月現在、文化庁
市町村ホームページ

＜参考：体験学習施設などが整備されている遺跡の事例＞

上記に挙げた縄文遺跡ではいずれも博物館などの施設を整備し、遺跡の価値を理解してもらうために出土品の保存や一般への公開に取り組んでいるが、特に体験学習や観光的な整備などに力を入れ、縄文遺跡を活用したまちづくりに取り組んでいる事例として、三内丸山遺跡と御所野遺跡などが挙げられる。

●三内丸山遺跡

特別史跡三内丸山（さんないまるやま）遺跡は日本最大級の縄文集落跡である。遺跡は通年で公開され、自由に見学することができる。「縄文の丘三内まほろばパーク」として平成13年に全体整備計画が策定されており、再現建物のほか、遺構展示施設、展示室、縄文時遊館などの施設が整備されている。

・公園全体面積：39ha うち特別史跡：24.3ha

・主な施設

- 一般竪穴住居 15棟
- 大型竪穴住居 1棟 (252.38㎡)
- 掘立柱建物（高床倉庫）3棟
- 大型掘立柱建物 1棟 (4.2m×8.4m×3層)
- 展示室 1棟 (1,099.7㎡)

遺構展示施設 5ヶ所

縄文時遊館

駐車場（約600台）

・縄文時遊館の概要

- 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 地上2階
- 7,350㎡（1F：6,905㎡、2F：445㎡）
- 主な施設：縄文シアター、ギャラリー、体験工房、レストラン、おみやげ品コーナー



まほろばパーク整備計画平面図



縄文時遊館平面図

資料：森県総合運動公園遺跡ゾーン（三内丸山遺跡）基本計画、青森県、平成13年
三内丸山遺跡ホームページ、縄文時遊館パンフレット

・観光入込客数の推移

	平成15年	平成16年	平成17年
三内丸山遺跡	489,345	401,806	330,681

資料：青森県観光統計概要、平成17年

●御所野遺跡

御所野遺跡は縄文時代中期後半の大規模なむらの跡で、65,000㎡の台地のほぼ全面に600棟以上の竪穴住居跡が見つかっており、縄文時代の社会構造を知る上で貴重な遺跡として、平成5年月に国指定史跡となっている。

御所野縄文公園は、「御所野遺跡環境整備事業」として次のように計画され、平成6年から平成13年にかけて整備された。

- ・基本理念：「歴史・自然環境と地域文化の共生」
- ・基本方針：史跡と景観の保全／学習と体験の場／文化財の中核施設／観光と憩いの場
- ・公園全体面積：13ha　うち史跡：5.5ha
- ・主な施設

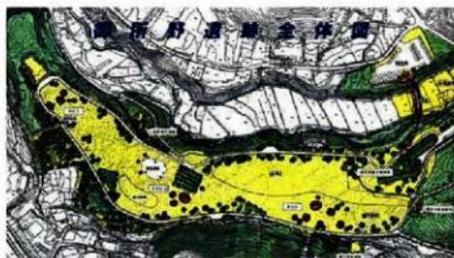
東むら：竪穴住居（4棟）復原

中央むら：ストーンサークル（実物展示）、竪穴住居（4棟）、掘立柱建物（3棟）復原

西むら：竪穴住居（4棟）、掘立柱建物（1棟）復原

センター施設（御所野縄文博物館）：鉄筋コンクリート2階建、敷地面積6,121㎡、
建築面積1,534.24㎡、延べ面積2,695.24㎡

駐車場：大型バス5台、乗用車98台、身障者用乗用車2台

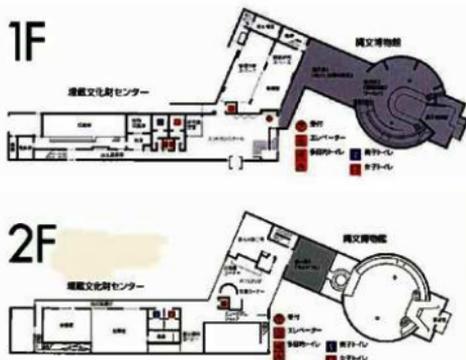


資料：御所野縄文公園ホームページ

・観光入込客数の推移

	単位：人／年		
	平成14年	平成15年	平成16年
御所野遺跡	43,323	48,652	44,432

資料：一戸町ホームページ



●仙台市縄文の森広場

縄文の森広場は、約4,000年前の大きな縄文ムラであった山田上ノ台遺跡を保存し活用するための施設である。

山田上ノ台遺跡は、おもに縄文時代中期終りごろの大きなムラの跡である。

ここからは昭和55年の調査で38軒の竪穴住居跡、60個の貯蔵穴、3ヶ所のごみ捨て場などが見つかかり、当時は見晴らしの良い台地の上に数件を単位とした2つの住宅群、周りには貯蔵穴、内側が供用の広場となるよう工夫された場の使い方をしていたと考えられる。

縄文の森公園では3軒の竪穴住居を復元しており、最近仙の遺跡の調査で分かってきた、クリ界で骨組みを造った屋根に土をのせた土屋根タイプを採用している。



縄文の森広場全体図

- ・施設面積（縄文ムラ・広場）：約1.5ha
（ガイダンス施設）：約0.2ha
- ・駐車場：大型バス3台、自家用車53台、障害者用2台



縄文の森広場館内図

資料：仙台市ホームページ

②陸前高田市の文化財の中での位置づけ

陸前高田市の文化財は以下のとおりである。国指定史跡は中沢浜貝塚1件のみであり、市にとって貴重な遺跡であることがわかる。

表1-3 陸前高田市の文化財等

国指定			
名称		種別	所在地
中沢浜貝塚		史跡	陸前高田市広田町字中沢
高田松原		名勝	陸前高田市高田町字古川・気仙町字砂盛
樽島ウミネコ繁殖地		天然記念物・動物	陸前高田市広田町字集
摩蔵寺の宝珠マツ		天然記念物・植物	陸前高田市小友町字門前(摩蔵寺)
蛇ヶ崎		天然記念物・地質紀物	陸前高田市小友町字谷地館
市指定			
名称	区分	種別	所在地
普門寺三重塔	有形	建造物	陸前高田市米崎町字埴竹沢
吉田家住宅	有形	建造物	陸前高田市気仙町町裏
絹本着色染明王画像	有形	絵画	陸前高田市米崎町字埴竹沢
木造仏聖観音菩薩坐像	有形	彫刻	陸前高田市米崎町字埴竹沢
銅鑄口	有形	工芸品	陸前高田市小友町字上の坊
吉田家文書	有形	古文書	陸前高田市気仙町町裏 陸前高田市図書館
漆塗曳馬絵馬	有形	有形民俗文化財	陸前高田市小友町字寺前
気仙町はんか七夕祭り	無形	無形民俗文化財	陸前高田市気仙町町裏 気仙公民館内
常盤寺の桜杉	有形	天然記念物・植物	陸前高田市小友町字上の坊
普門寺のサルスベリ	有形	天然記念物・植物	陸前高田市米崎町字竹沢
青松島	有形	名勝及び天然記念物	陸前高田市広田町字集
市登録			
名称		種別	所在地
陸前高田の漁用具		有形民俗文化財	陸前高田市高田町

資料：いわての文化情報大事典 WEB

【広田半島の遺跡分布図】

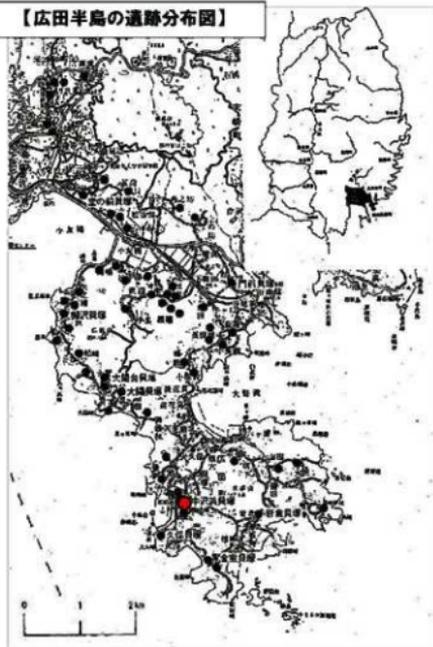


図1-12 広田半島の遺跡分布図

資料：国指定史跡「中沢浜貝塚」

保存管理計画書

3. 計画地の現況

計画地は、陸前高田市の南東部に位置する広田半島にあり、泊港に面した小高い丘となっており、広田湾が一望できる。

公有地化が進められているが、平地の塀、崖や急な斜面が見受けられる。

次ページ以降に、現況写真図（内景観）、現況写真図（外景観）、計画地の現況図（高低差）、（保存管理区分）、（津波遡上範囲）を示す。

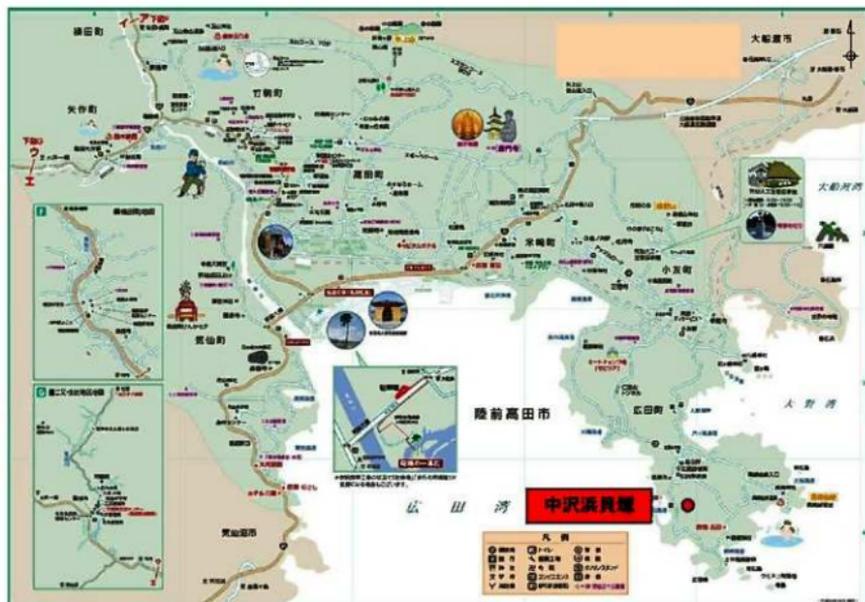


図 1-14 中沢浜貝塚の位置

資料：陸前高田市観光マップ

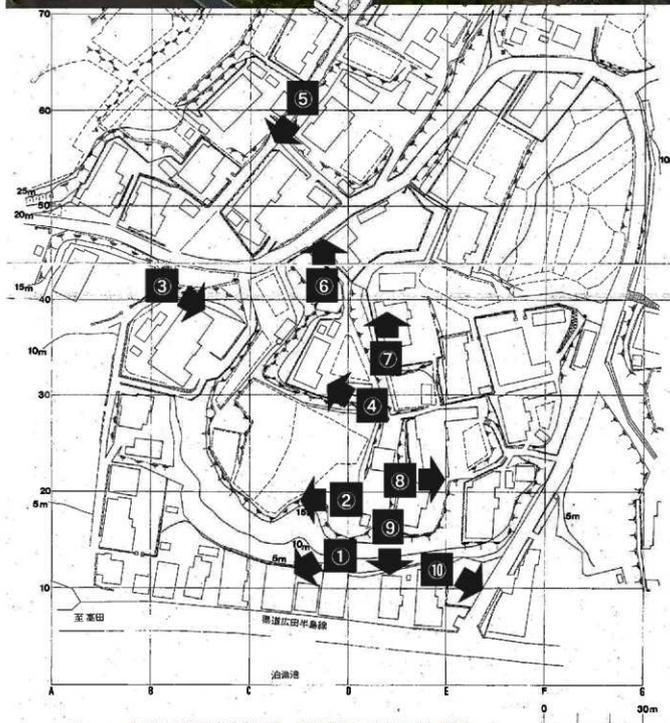
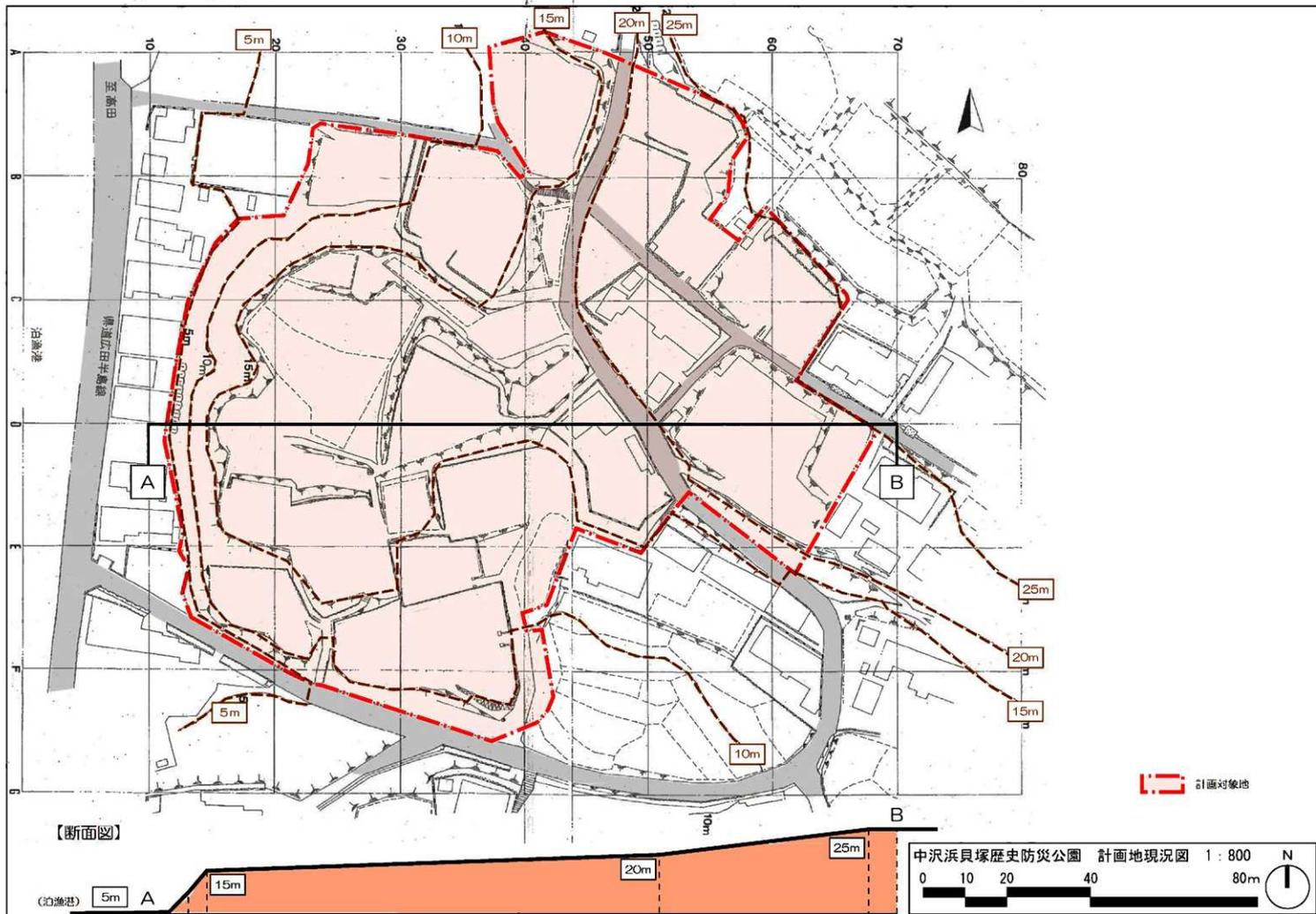


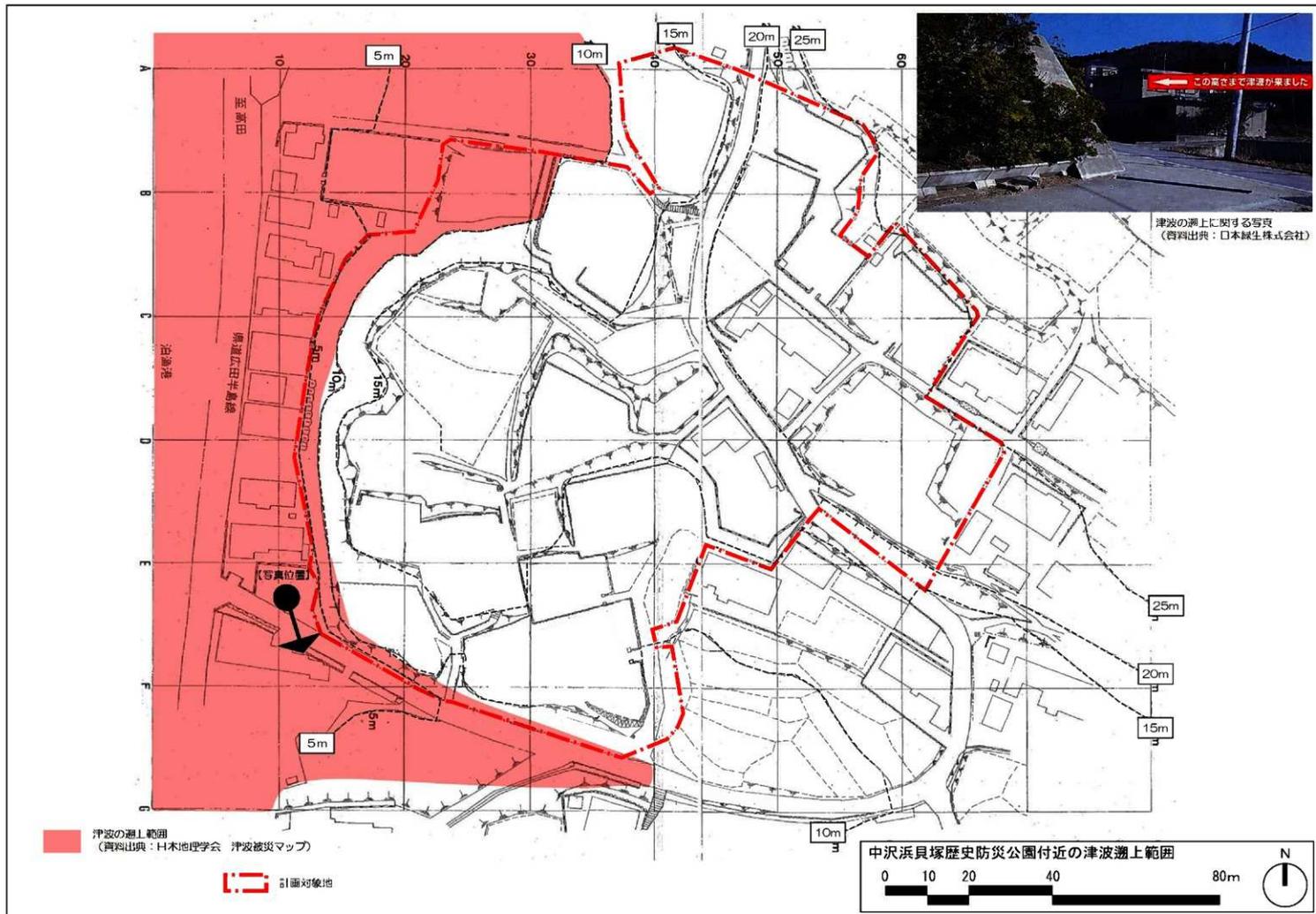
图 1-15 中沢浜貝塚歴史防災公園 対象地現況写真図（内景観）



図 1 16 中沢浜具塚歴史防災公園 対象地現況写真図（外景観）



計画地現況図（高低差）



計画地現況図（津波遡上範囲）

第2章 整備課題の整理

前項までの内容を踏まえ、課題とそれに対応した整備の方向性は次の通りとなる。

表 計画地の特性と課題

項目	特性	課題	整備の方向性
上位関係連	震災復興計画・ 「海と緑と太陽との共生・海浜新都市」の創造 広田半島地区：海洋型スポーツレクリエーション拠点の形成	将来ビジョンにふさわしい公園整備が求められている	将来ビジョンに対応した機能・施設の検討
計画	H11 保存管理計画書 震災復興祈念公園の役割 「追悼・鎮魂」「復興の象徴」「防災・減災」「地域の活性化」「災害の記録・教訓の伝承」	保存管理計画に基づいた公園整備が求められている	保存管理計画に対応した機能・施設の検討
	国交省報告書 震災復興祈念公園の役割 「追悼・鎮魂」「復興の象徴」「防災・減災」「地域の活性化」「災害の記録・教訓の伝承」	それぞれの役割に応じた機能・施設の導入が求められている。	復興を祈念する機能・施設の検討
立地条件	市の中心部から東南へ約8.5kmの距離にあり、海に面している	広田地区の地域の役割に応じた公園整備が必要	憩い・交流・防災の拠点としての必要十分な施設・機能の導入
社会条件	人口 広田地区の人口は約3500人、三世帯世帯が多いと考えられる 市全体では高齢化が進んでいる	地域の魅力を高める公園整備、高齢化に対応した公園整備が必要	地域の魅力となる公園の整備 ユニバーサルデザインに配慮した施設の導入
土地利用	海に面した丘陵地で周囲は木造の住宅地	海からの避難場所としての役割や身近な公園としての機能が必要	避難施設の導入、身近な公園としての施設・機能の導入

項目	特性	課題	整備の方向性
社会条	法規制 計画地全域が国史跡に指定	公園整備にあたっては文化庁等との調整が必要	整備の必要性を明確にして協議を実施
事件	交通 車によるアクセスが主。	車でのアクセスを考慮した施設配置が必要	駐車場の設置
計画地を取り巻く状況	文化財保護法の史跡に指定されている 市内で唯一の国指定史跡 県道を山側に付け替える計画がある	史跡の適切な保存と活用が必要 県道から公園へのアクセスが必要	保存・活用のための史跡整備 将来的なアクセス路の検討
ワークショップの意見	【地域のいいところ】 ・高台で景色が良い ・海と山どちらもある ・人がいい ・水産のルーツ ・砂地で水はけがよい 【地域の気になるところ】 ・風が強い ・人が集まる場所がない ・避難階段がない ・道が狭い ・段差が多い ・砂地でヘリ着陸が大変	景色を活かした整備が必要 歴史資源を活かした整備が必要 段差を解消し、地域住民等が集まりヘリが着陸できるスペースの確保が必要 避難階段や避難路の設置が必要	景色を楽しめる休憩機能の導入 歴史資源の展示・学習機能の導入 災害時にヘリコプターが着陸できるスペース等の設置 避難階段・避難路の導入

以上により、本計画地の整備課題は、次の通りとする。

【計画地の整備課題】

- ・中沢浜貝塚の歴史的貴重性を伝え、次世代に継承する公園整備
- ・災害時の避難場所、情報伝達等の拠点となる防災公園整備
- ・東日本大震災による災害を伝え、追悼と鎮魂の公園整備
- ・地域に親しまれ、学校教育などにも活用できるような公園整備
- ・地域との連携や様々な交流を創造し、地域活性化に資する公園整備

第3章 公園整備基本方針

1. 計画の基本的考え方

(1) 事業の方向性

テーマ 「海・人・歴史」

海とともに生きた人々の証左である中沢浜貝塚を保存・活用することにより、当時のくらしと自然との係わりを学び、体感する中で、わたしたちのくらしを振り返り、東日本大震災からの復興を目指すまちづくりに生かすとともに、この史跡の価値を全国に発信し、次の世代を担う子どもたちに引き継ぐ。

- ・史跡の適切な保全が行われ、当時の歴史環境・自然環境を表現する場とする。
- ・当時の人々の暮らしと自然との関わりを日常的に実感できる学習の場とする。
- ・市民との協業による史跡公園を通じた地域づくりを行う場とする。
- ・災害時の緊急避難先として、防災機能を付加した場とする。

(2) 事業の長期的ビジョン

1. 日本の考古学や人類学の発展に大きく寄与した史跡として、今後も調査研究を継続させながら、適切に保存する。また、中沢浜貝塚では縄文時代早期から弥生時代、奈良・平安時代の各時代の人々の生活の痕跡が確認されていることを踏まえ、海と当時の人々のくらしとのつながりをテーマとした公園整備を行い、当時の遺構等を再現する。さらに、海への良好な眺望を生かしながら、当時の地形や植生を復元し、海とともに生きた人々のくらしを体感できる空間づくりを進める。
2. 当時の人々のくらしを体感するとともに、史跡を学習する場としてガイダンス施設を設置する。また、ガイダンス施設を中心として海にくらした人々の生活を体験できる活動等のソフト事業を行うことにより、史跡保護の理解の促進を進める。
3. 市民が「わたしたちの史跡」という誇りを持てるよう、行政と市民がともに活用・運営を図る公園整備を行い、史跡公園を通じた市民の文化活動を促進し、市内外の人々との交流を進める。
4. 三陸沿岸部の貝塚が東日本大震災・津波で被災しなかったことに鑑み、中沢浜貝塚を周辺漁港等からの緊急避難場所とし、その機能を充実させるために避難路や防災備品の保管施設等を設置し、災害時の一次対応機能を付加した公園整備を進める。

2. 計画の基本理念

(1) 中沢浜貝塚の位置づけ

- 国を代表する複合遺跡（縄文早期～平安）で、水産日本の基礎を築いた縄文人の歴史が埋蔵された史跡のため適切な史跡保全と体験・学習の場
- 周辺観光施設（黒崎神社・黒崎仙峽温泉等）との連携による、広田半島の観光拠点施設
- 広田漁港・隣接地区住民の一次避難場所となる施設

(2) 基本理念

前章までの現況や整備課題、国指定史跡「中沢浜貝塚」保存管理計画書を踏まえるとともに、本市の震災復興計画の「海と緑と太陽との共生・海浜新都市の創造」にもとづき、海と豊かな自然に囲まれ、縄文人が長い間生活を営んできた計画地を「市民協働によるまちづくり」として整備することを目指し、計画の基本理念を次の通り設定する。

基本コンセプト

**豊かな海とともに住み続けてきた歴史を
後世に伝える歴史防災公園**

理念1

豊かな海とともに住み続けてきた歴史を学び、後世に伝える公園

理念2

地域とともに史跡を見守り、地域全員で育てていく公園

理念3

東日本大震災の記憶を継承し、

史跡保全に配慮しつつ、災害時の避難場所となる公園

(3) 公園整備の基本方針

【史跡公園としての基本方針（第二段階整備）】

- 日本の考古学や人類学の発展に寄与した史跡として、今後も調査研究を継続させながら、後世に継承できるように適切に保全する
※調査は長期間かかることが想定されるため、調査研究結果を適宜市民に提供できるように、仮設ガイダンス施設の設置やパンフレット等による広報を行う
- 水産日本の基礎を築いた縄文人のくらしと、海とのかかわりを体感できる施設整備を行う
- 地域住民が「わたしたちの史跡」と誇れるように、市民協業による計画づくりや、観光・交流イベント等を開催する



【歴史防災公園としての基本方針（第一段階整備）】

- 三陸沿岸部の貝塚が東日本大震災・津波で被災しなかったこと、および中沢浜貝塚では設置されている石碑から過去の津波においても被災していないことに鑑み、周辺漁港等からの緊急（一時）避難場所とする
- 史跡保全に配慮しながら、緊急避難場所としての機能を確保できる施設整備を行う
- 過去の津波でも被災しなかった場所であることを後世に継承するとともに、地域住民が「中沢浜貝塚」は「史跡かつ避難場所」と認知できるように、施設整備を行う



第4章 公園整備基本構想

1. 土地利用計画

前項で検討した基本方針を踏まえて、必要となるゾーンを設定するとともに、各ゾーンにおいて導入すべきエリアを設定した。

また、エリアの内容と計画対象地の敷地条件等との整合を図り、エリアの配置計画を立案するとともに、導入施設の考え方を整理した。

なお導入施設は、主に防災公園に関連する施設を第一段階として整備することとし、第二段階として歴史公園に関連する施設の整備を行うものとした。

(※スケジュールの考え方は、第6章を参照のこと)

各エリアの内容、導入施設、配置の考え方は表4-1「中沢浜歴史防災公園基本構想」に示した。

なお、基本構想の内容については、地域住民の代表者を中心とした検討委員会および学識者を中心とした指導委員会にて審議を行った。検討委員会および指導委員会での審議内容は、資料編を参照のこと。

2. 動線計画

前項で検討した基本方針を踏まえて、必要となる動線を設定するとともに、動線の内容と計画対象地の敷地条件等との整合を図った動線の配置計画を立案して、導入すべき施設内容を設定した。

なお導入施設は土地利用計画と同様に、主に防災公園に関連する施設を第一段階として整備することとし、第二段階として歴史公園に関連する施設の整備を行うものとする。

(※スケジュールの考え方は、第6章を参照のこと)

各動線の内容、配置の考え方、導入施設は、表4-2「中沢浜歴史防災公園基本構想（動線計画）」に示した。

なお、動線計画の内容については、地域住民の代表者を中心とした検討委員会および学識者を中心とした指導委員会にて審議を行った。検討委員会および指導委員会での審議内容は、資料編を参照のこと。

表4-1 中沢浜貝塚歴史防災公園基本構想

基本方針		エリア	配置・導入施設の考え方	第一段階導入施設 主に〔防災公園〕	第二段階導入施設 主に〔歴史公園〕
歴史	日本の考古学や人類学の発展に寄与した史跡として、今後も調査研究を継続させながら、後世に継承できるように適切に保全する	史跡保全エリア	●計画地の第1種区域を中心に配置する ※調査は長期間がかかることが想定されるため、調査研究結果を適宜市民に提供できるように、仮設ガイダンス施設の設置やパンフレット等による広報を行うも検討 ※調査研究結果を踏まえて、史跡整備内容を精査する	●歴史解説板（仮設置）	●貝層観察施設 ●遺構復元施設 ●歴史解説板 ●散策道路 ●植栽
	水産日本の基礎を築いた縄文人のくらしと、海とのかかわりを体感できる施設整備を行う	眺望エリア	●海を見渡せる計画地西側で、地形の掘削等が不要で史跡への影響がない範囲に配置する ●WS意見を踏まえて、既存木の周辺に四阿を配置する	●休憩施設（四阿・ベンチ） ●駐輪防止フェンス ●海の解説板（仮設置）	●芝生広場 ●散策園路 ●植栽
	市民が「わたしたちの史跡」と誇れるように、市民協業による計画づくりや、観光・交流イベント等を開催する	防災エリア	●計画地の第2種区域を中心に配置する ●計画地内で最も高い位置となる（計画地東端）を中心に防災施設を配置する	●避難広場 ●防災施設（備蓄倉庫、防災ベンチ等）	●散策園路 ●植栽
防災	三陸沿岸部の貝塚が東日本大震災・津波で被災しなかったこと、および中沢浜貝塚では成層されている石積から過去の津波においても被災していないことに鑑み、周辺漁港等からの緊急（一時）避難場所とする	交流エリア	●計画地の第2種区域を中心に配置する ●平坦地に、お祭りやイベント等のできる多目的広場を配置する	●多目的広場	●散策園路 ●植栽
	史跡保全に配慮しながら、緊急避難場所としての機能を確保できる施設整備を行う	入口エリア	・公園への主要なアクセス場所に、入口を配置する	●入口（ブロック舗装） ●案内表示サイン ●花壇	●公園案内板
	過去の津波でも被災しなかった場所であることを後世に継承するとともに、地元住民が「中沢浜貝塚」は「史跡かつ避難場所」と認知できるように、施設整備を行う	史跡外エリア	●史跡区域外にガイダンス施設や駐車場、WS意見を踏まえた遊具広場や花見広場などの整備を検討	○駐車場（仮設置）	【史跡外に整備を検討】 ○ガイダンス施設 ○管理棟、トイレ ○駐車場 ○遊具・花見広場

表4-2 中沢浜貝塚歴史防災公園基本構想(動線計画)

基本方針		動線	配置	導入施設	導入施設
動線	<ul style="list-style-type: none"> 対象地内を周遊できるルートを設定する 散策できるルートを設定する 周辺漁港等からの緊急（一時）避難場所とする 広田半島の観光施設とのネットワーク化を図る 	主動線	史跡全体を周遊できるルート		●（ユニバーサル）園路
		散策動線	主動線と各入口をつなぐルート		●ウォーキングコース
		避難動線	海岸から高台への避難ルート	●避難階段、避難路 ●ソーラー照明	
		アクセス動線	県道や周辺施設から、公園へのアクセスルート		○県道とのアクセス路

○は、史跡外に整備を検討する施設

3. 基本構想図の作成

(1) 基本構想図

土地利用計画の内容を踏まえて、中沢浜歴史防災公園の基本構想図を作成し、図 4-1 中沢浜歴史防災公園基本構想図 に示した。

(2) 動線計画図

動線計画の内容を踏まえて、中沢浜歴史防災公園の動線計画図を作成し、図 4-2 中沢浜歴史防災公園基本構想 動線計画図 に示した。

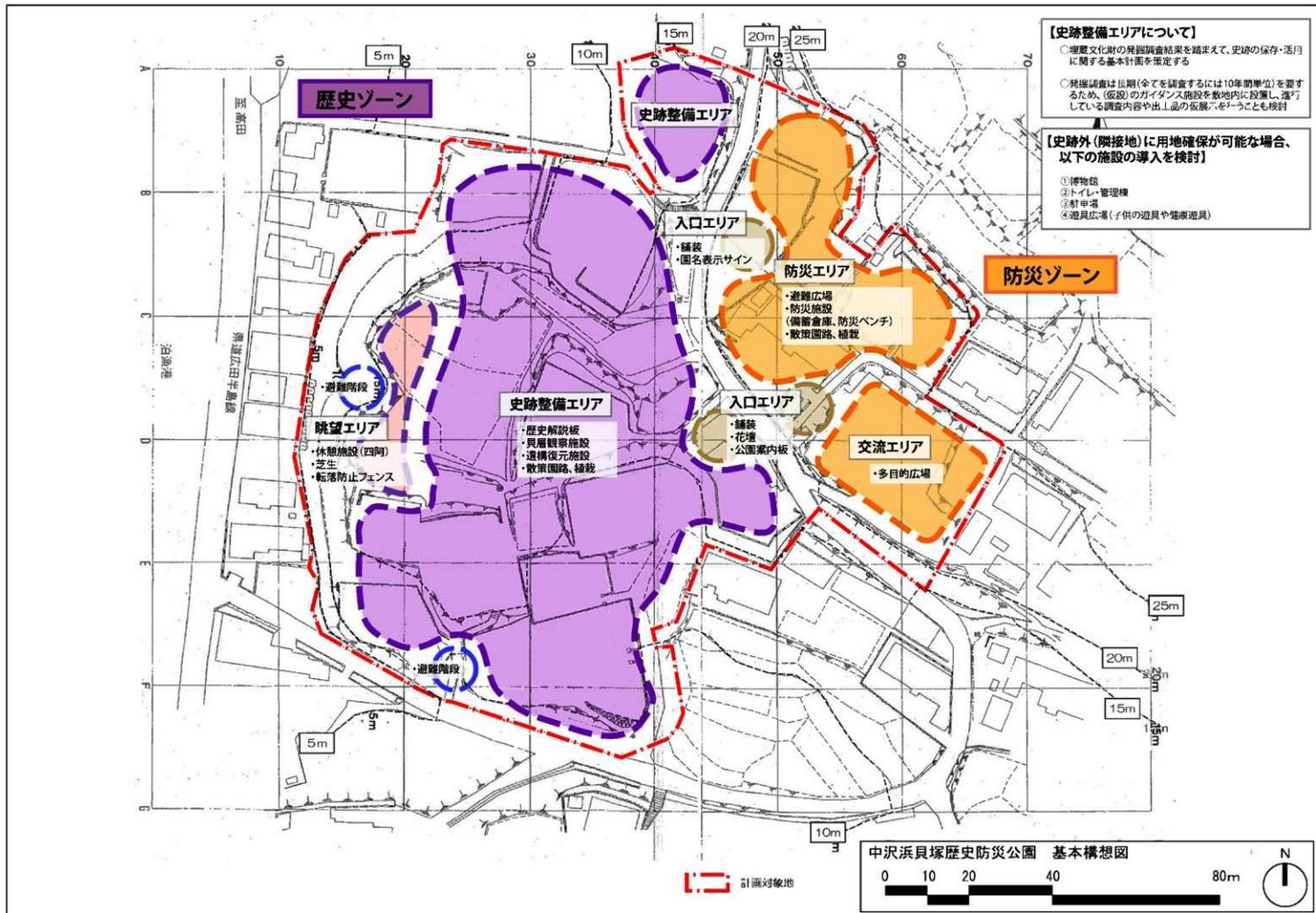


図4-1 基本構想図

第5章 公園整備基本計画

1. 基本計画図の作成

基本方針と基本構想および動線計画を踏まえて、主に防災公園としての導入施設の施設内容と配置に関する検討を行い、図5-1 基本計画図に示した。

なお、基本計画の内容については、地域住民の代表者を中心とした検討委員会および学識者を中心とした指導委員会にて審議を行った。検討委員会および指導委員会での審議内容は、資料編を参照のこと。

指導委員会における審議内容で特に留意する事項として、埋蔵文化財の詳細なデータがないことが挙げられた。そのため史跡整備エリアは、今後の発掘調査結果を踏まえて、史跡の保存・活用に関する詳細な計画を策定すること、また発掘調査は長期間を有するため、調査期間中は仮設のガイダンス施設等を敷地内に設置し、進行している調査内容や出土品（レプリカや写真等含む）の仮展示を行うことが望ましいとされている。

2. 整備イメージの検討

(1) 整備の基本的考え方

中沢浜貝塚は、国を代表する複合遺跡（縄文早期～平安）で、水産日本の基礎を築いた縄文人の歴史が埋蔵された史跡であり、陸前高田市では保存管理計画書（H11.2）を作成して、土地の公有化を進めてきている。

しかし、本年度開催した「中沢浜貝塚歴史防災公園指導委員会」においても改めて指摘されたように、現在の史跡範囲はアナログデータで作成された昭和9年指定時のままであり、現時点においても地形情報や埋蔵範囲が詳細に示されたデジタル情報がない。

また貝塚の埋蔵状況も人骨が発掘された場所が確認できている程度で、歴史防災公園として整備した場合の影響について、見込みをつけるための情報すら無い状況である。

ただし、歴史防災公園として整備を進めるには、史跡に影響を与えないことを明確に提示することが大前提である。

そのため、史跡範囲および影響範囲を明確にするために、まずは対象地周辺も含めた学術的な発掘調査を行い、歴史防災公園整備は調査結果を踏まえて学識経験者のアドバイスを受けたのちに文化庁協議を行い、その後に整備を進めることを基本とする。

なお緊急性の高い防災機能の整備は、詳細な調査結果がまとまる前段階から進める必要があるため、防災公園施設については、以下の条件を踏まえて基本・実施設計を進め、整備を行うものとする。

【防災公園としての施設整備の基本的考え方】

- ・まずは、デジタル地形図（1/500程度）を作成する。地形情報から、既に人工改変された範囲内で整備を行う。
- ・基本的には置型基礎とするが、ボーリングデータ等により埋蔵物への影響がないと判断できた場合は、掘削による構造物基礎を設置可能とする。
- ・発掘調査が終わるまでは原則として地形改変は行わない。ただし、避難広場や避難動線確保のための最低限の盛土は、学識経験者のアドバイス、文化庁・県教育委員会事務局の指導を受けることを条件として行うものとする。

上記を踏まえて、避難階段の設置が埋蔵物に影響を与えると判断された場合は、北側のスロープ側に設置位置を変更することも検討する。

なお、別途計画が進んでいる防潮堤の整備内容は現時点では明確になっていないが、仮に盛土による防潮堤（T.P. 12.5m）が整備されることになると、史跡全体の埋蔵物および（眺望）景観に影響が生じるため、防潮堤の計画段階から調整を図っていく必要がある。

また、歴史機能の詳細な整備計画は、基本構想で作成した導入施設を主として発掘調査を踏まえながら展示手法・解説内容の詳細な検討を行うものとする。

【歴史公園としての施設整備の基本的考え方】

- ・発掘調査が終わるまでは原則として地形改変は行わない。ただし、避難広場や避難動線確保のための最低限の盛土は、学識経験者のアドバイス、文化庁・県教育委員会事務局の指導を受けることを条件として行うものとする。
 - ・調査は長期間かかることが想定されるため、調査研究結果を適宜市民に提供できるように、仮設ガイダンス施設の設置やパンフレット等による広報を行うも検討
- ※調査研究結果を踏まえて、史跡整備内容を精査する

(2) 造成計画

整備の基本的考え方を踏まえて、造成の際の留意点を以下に示した。

【造成計画の基本的考え方】

- ・人工改変された範囲は、極力自然地形に復元を図る。
- ・ただし、発掘調査が終わるまでは原則として地形改変は行わない。なお避難広場や避難動線確保のための最低限の盛土は、学識経験者のアドバイス、文化庁・県教育委員会事務局の指導を受けることを条件として行うものとする。
- ・基本的には置型基礎とするが、ボーリングデータ等により埋蔵物への影響がないと判断できた場合は、掘削による構造物基礎の設置を検討する。
- ・整備工事に当たって埋蔵物に負荷を与えないように、重機等の取り扱いについては十分配慮し、基本的には人力施工とする。

(3) 植栽計画

整備の基本的考え方を踏まえて、植栽計画を以下に示した。

【植栽計画の基本的考え方】

- ・人工改変された範囲は極力自然地形の復元を図るため、植栽木も地域固有の郷土種の中から史跡としての景観に融和する樹種選定を行う。
- ・具体として、高木は縄文時代の食糧となっていたドングリ類のほか花木紅葉木を中心とし、低木はハマナス等、耐潮性のある樹種選定を行う。
- ・なお植栽工事に当たって埋蔵物に負荷を与えないように、重機等の取り扱いについては十分配慮し、基本的に人力施工とするほか、根系による埋蔵物への影響が生じないように必要に応じて保護シートを埋設する。

(4) 防災施設計画

公園の位置づけ、および基本構想を踏まえて、防災施設は、【一次避難地の機能を有する都市公園】および【避難路の機能を有する都市公園】と同程度の機能確保を行うものとした。

防災公園の種類	公園種別	主な機能	主な対応期間
広域防災拠点の機能を有する都市公園	広域公園等	消防や救助、救護、復旧等諸活動の広域的な支援拠点（主として後方支援）、及び、状況によっては一時的避難生活の場	直後段階から応急、及び復旧・復興段階
広域避難地の機能を有する都市公園	都市基幹公園 広域公園等	市街地延焼大災時等の広域避難地と一時的避難生活の場、及び消防や救助拠点、復旧活動等の支援拠点、また市街地大災延焼遅延や防止	主として直後段階から緊急段階、状況によっては応急段階の一時期
一次避難地の機能を有する都市公園	近隣公園 地区公園等	一時的避難や広域避難地への中継地、及び初期における救援活動支援	主として直後段階から緊急段階
避難路の機能を有する都市公園	緑道 等	主として広域避難地やその他安全な場所、避難施設への避難の通路。状況により大災延焼の遅延や防止	主として直後段階から緊急段階
石油コンビナート地帯等と背後の一般市街地を遮断する緩衝緑地	緩衝緑地	大災やその他の災害防止、或いは被害を軽減する。	主として予防段階から直後、緊急段階
身近な防災活動拠点の機能を有する都市公園	緩衝緑地	一時的避難、および初期の救援活動支援	主として直後段階から緊急段階

資料) 防災公園・設計ガイドライン

【直後段階：発災～概ね3時間】

- ・緊急避難の場（人命救助や初期消火等の活動の場ともなる）
- ・大火時の避難中継地

【緊急段階：概ね3時間～概ね3日】

- ・救援活動の場（地域の防災情報の収集・伝達、救援物資の受け入れの場）
- ・一時的避難生活の場

また「防災公園計画・設計ガイドライン」によると、一次避難所および避難路としての位置づけを踏まえた必要性が高い防災関連公園施設は、【入口形態】【広場】【園路】【標識および情報提供施設】【非常用照明設備】である（次頁表参照）。

※なお、基本的に該当する施設としては、【外周形態】【植栽】【非常用便所】【非常用電源設備】がある

●避難広場の規模について

「防災公園計画・設計ガイドライン」では、有効避難単位面積は、2㎡/人以上とされている。現計画の防災広場と多目的広場と芝生広場をあわせた避難可能面積は約4,000㎡であり、2,000人程度（広田町の人口：約3,700人の半数程度）が避難可能な規模を確保する。

※（防災ゾーン）約5,000㎡×0.7=3,500㎡+（芝生広場）500㎡⇒4,000㎡

(5) 施設イメージの検討

1) 園路広場施設

①入口の舗装

入口部は、耐久性のあるブロック舗装とする。

なおブロックは、史跡としての雰囲気を演出できるよう土系のブロックとする。



保水型土系ブロック



保水型コンクリート系ブロック

②園路

園路は、歩行者が快適かつ安全に歩行できるよう、舗装を行う。

なお舗装材は、史跡としての雰囲気を演出できるよう土系舗装とし、埋蔵物への影響が生じないように人力による施工が可能なものとする。



● 土砂の流出を防ぎ、表面を保護します

土のままの庭、歩道等は豪雨の場合、雨水の排水とともに土砂が流れ出します。ひどい場合は雨水の流れた痕が深い溝になって洗濯されたり、土砂崩れの原因になったりします。
エコクリーンソイルを施工すると、自身が硬化して強固な保護面を作りますので地下の土砂の流出を防ぎます。
また、歩行時にもぬかるんだり、泥濘化しません。

● 見た目は自然の土です

● 施工は簡単で作業性に優れています

● 崩壊が可能です

※ 保存は水、湿気のないところで保存して下さい。

● 簡単に補修・撤去ができます



エコクリーンソイルの用途

道路の中央分離帯、踏切帯、植樹帯、史跡保存、墓地整備、公園、広場やイベント会場などの歩行帯や階段、駐車場などのフェンス際、空き地の環境管理、石畳やレンガの目地等、多種多様な用途に対応。

③防災広場

防災広場は、平常時は防災訓練ができるスペースとして、緊急時は避難広場として活用できるように、なだらかな地形の広場として整備する。なお土埃が舞わないように芝生舗装とする。

防災広場イメージ



④多目的広場

多目的広場は、平常時は地域のイベントができるスペースとして、緊急時は避難広場として活用できるように平坦な地形の広場として整備する。なおイベントを行えるよう土系の舗装とするが、土埃が舞わないような表面処理を行うものとする。

多目的広場イメージ



2) 修景施設

①芝生広場

芝生広場は、海への眺望が開ける計画地西側に、四阿とともに配置する。



海への眺望（左）と芝生広場イメージ（右）

②四阿

四阿は、芝生広場内に配置する。通常時でも景観になじむ木柱タイプとし、災害時には桁にパイプでテントをかけ救援室等として利用できる防災タイプのものとする。

なお、基礎は地面の掘削が不要なベアースプレートタイプを採用する。



通常時、景観になじむ涼亭として、災害時には、桁に架けたパイプにテントをかけ、緊急の避難室等として利用できます。
コンパクトなので、比較的小さな広場にも設置することが可能です。

AFD-001

防炎処理

●標準 ¥2,150,000
（税別） ¥2,027,000
※標準費、送料別計別、別途工事費別途。

※オプション付加可（別途見積）
 屋根ノリ付（フーノリ付）仕様
 屋根コンクリート（FRP）仕様
 フォームカラー（カラー）仕様（既設建築物との連携、各仕様別料金）
 専用シート張設（オプション）

標準	¥280,000 （税別） ¥268,000
----	---------------------------

※標準の重量は約2.5t（約3.0t）



※標準の重量は約2.5t（約3.0t）



●防災東屋使用イメージ



通常時

➔



災害時

※標準の重量は約2.5t（約3.0t）

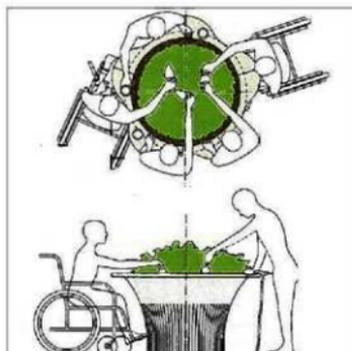
四阿イメージ

③花壇

計画地中央部に、ワークショップにて要望のあった花壇を配置する。花壇はユニバーサルなデザインのものとし、地面の掘削が不要な置き型タイプのプランターとする。



花壇イメージ



3) 休養施設

①(防災)ベンチ

防災広場、多目的広場内にベンチを配置する。ベンチは、災害時にかまどとして利用できるタイプのベンチとする。



ベンチイメージ

4) 教養施設

①案内板・海の解説板

入口部や公園へのアクセス路に、案内板を設置する。また芝生広場付近に海との関わりを解説する解説板を設置する。

案内板・解説板は置型基礎を基本とする。



案内板・解説板イメージ

②既設案内板(体験学習解説板)

既設案内板は、内容を精査して再設置を行う。また石碑はそのまま保存し、隣接部に解説板を設置する。

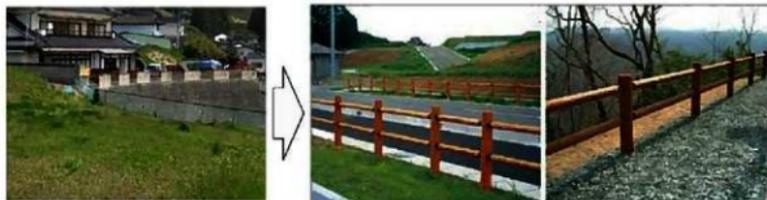


既設案内板(左)と石碑(右)

5) 管理施設

①転落防止フェンス

地形の高低差がある場所で造成による解消ができない場合は、転落防止フェンスを設置する。転落防止フェンスは、景観になじむ木製タイプを基本とし、埋蔵物への影響が生じる可能性がある場合は、置型基礎等を採用する。



現況高低差（左）とフェンスイメージ（右）

②照明灯

海岸から高台への避難ルート周辺に照明灯を設置する。照明灯は非常時でも使用できるようにソーラータイプを採用する。

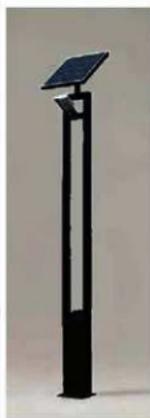
☀️ソーラー照明・太陽電池時計



太陽エネルギーで動く時計灯と照明灯

ソーラーパネルで駆動するための電圧上昇が必要ない取付工事のアイテムです。
災害時にモバイルラインが停電しても使用できる時計灯と時計灯が設置しています。

ソーラー照明灯 太陽エネルギーで駆動する高機能LED照明灯



LED照明

高効率LEDの寿命が長く、LEDの消費電力が従来の電球よりも約1/10と少ないため、省電力で長寿命です。また、LEDの消費電力が従来の電球よりも約1/10と少ないため、省電力で長寿命です。

ソーラーパネル

太陽エネルギーを光エネルギーに変換し、バッテリーに充電して電力を供給します。ソーラーパネルは、太陽光が当たる限り充電し続けることができます。

非常用電源としての活用

避難路の照明にソーラーパネルを設置することで、災害時に電力が不足した場合でも、LED照明が点灯し、避難路を照らすことができます。また、LED照明の寿命が長く、LEDの消費電力が従来の電球よりも約1/10と少ないため、省電力で長寿命です。

高機能LED照明

ソーラーエネルギーで駆動する高機能LED照明灯は、非常時に使用できます。電圧変動、電圧不足などの電圧変動にも対応しています。

ソーラー照明灯イメージ

6) その他施設

①避難階段

緊急時に、現在の県道から高台（芝生広場計画予定地）への避難できるルートを確保するため、計画地西側に避難階段を設置する。

避難階段は高齢者や子供でも昇りやすいように階段の勾配、ステップ巾、手摺り、転落防止に留意したものとし、2人が並んで登れるよう幅員は1.5m程度を確保する。また手すりは子供と大人が使用できるよう2段タイプのものとする。

なお避難階段の設置によって埋蔵物に影響を与えると判断された場合は、北側のスロープ側（既設の石碑側）にルート位置を変更することも検討する。



階段イメージ



②防災倉庫

計画対象地で、最も標高の高い場所に、防災倉庫を設置する。防災倉庫の外装は、史跡としての雰囲気演出できるようなものとする。

なお、倉庫内に備蓄するものは、今後、防災課や地域住民と協議しながら検討するが、一時避難場所としての想定であるため、基本的に食糧備蓄は考慮せず、自家発電や工具等の保管を行うものとする。

なお防災倉庫の規模は、地域の方の見回り拠点としても使用できるオープンスペースも確保できるように、30㎡以上の規模を確保する。



防災倉庫イメージ

③仮駐車場

計画対象地には駐車スペースがないため、将来的には敷地周辺に駐車場を設置することが望ましい。

しかし、歴史公園としての整備には長期間を要するため、その間に公園管理者や利用者が使用できる一時的な仮駐車場を設置することが望ましい。設置場所は、計画対象地の隣接地に土地が確保することが望ましいが、確保できない場合は計画地内で人工改編された地形部分に配置する。

仮駐車場の規模は、上記確保スペースによるが、複数利用を想定すると最低限3～5台程度のスペースを確保することが望ましい。

第6章 整備スケジュール等

1. 整備スケジュール

中沢浜貝塚の整備スケジュールについては、歴史防災公園として整備する「第一段階整備」と、史跡公園として整備する「第二段階整備」に区分される。それぞれのスケジュール、及び、学校教育や生涯学習との連携スケジュールについて 図 6-1 今後のスケジュール に示した。

2. 今後の展望

今年度の基本構想・基本計画、及び指導委員会、検討委員会、ワークショップの内容等を踏まえ、今後は次のような点に留意して進める必要がある。

(1) 埋蔵文化財の詳細なデータ収集

今年度開催した指導委員会の審議内容を踏まえ、埋蔵文化財の詳細なデータの収集に努め、史跡整備エリアについては、今後の発掘調査結果を踏まえて、史跡の保存・活用に関する詳細な計画を策定することが必要である。

また、今年度開催した歴史防災公園検討委員会及び指導委員会を継続して開催し、整備や調査状況等の報告や審議を行いながら、計画策定を進めていく必要がある。

(2) 地域住民との連携

平成 11 年以降、史跡範囲内の公有地化は進められてきたが、その後表面上は何も変わっていないという印象を与えており、ワークショップ等において地域住民からは、その点を指摘する意見も数多くあった。

今後の発掘調査には、長い期間を必要とするため、調査期間中は仮設のガイダンス施設等を施設内もしくは隣接地等に設置し、進行している調査内容や出土品（レプリカや写真等を含む）の仮展示を行うことが望ましい。

また、今年度開催したワークショップを継続して開催し、地域住民への丁寧な情報提供に努めていくとともに、地域住民に草刈り等の協力を求めるなど、地域住民との連携を進める必要がある。

(3) 学校教育・生涯学習等との連携

検討委員会からは、子ども達や地域住民の学習の場としての活用を図るよう多くの指摘があった。小学校・中学校の総合学習の時間を活用した体験学習や、これまでの調査で分かったことなどをパンフレットや冊子によりまとめ、コミュニティセンターで配布したり、講演会などを行ったりすることが望ましい。

(4) 史跡範囲周辺の施設整備

本基本構想・基本計画は、史跡範囲を対象として進めてきたが、ワークショップにおいて地域住民から要望のあった一部の施設は、文化庁より史跡内に整備をすることが難しいとの回答を得ている。そのため、史跡範囲周辺に市有地を確保できる場合は、公園用地の拡大も視野に入れながら検討を行うことが望ましい。

表 6-1 今後のスケジュール

取り組み施策	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度以降
1 第一段階整備（歴史防災公園としての整備）					
・整備事業	・歴史防災公園基本構想・基本計画の策定	・予備調査(測量・ボーリング) ・歴史防災公園の基本設計・実施設計	・歴史防災公園整備工事 (都市防災推進事業 D-20)		
・委員会等	・歴史防災公園検討委員会の開催(2回) ・歴史防災公園指導委員会の開催(2回)	・歴史防災公園検討委員会の継続（整備・調査等の状況報告） ・歴史防災公園指導委員会の継続（整備・調査等の状況報告）			
・地域住民との連携	・ワークショップの開催(3回)	・住民との話し合いとして、ワークショップ等の継続 ・整備・調査等の状況報告 ・専門家による中沢浜貝塚の説明・講演等 ・地域住民と協力した計画地の草刈り等			
2 第二段階整備（史跡公園としての整備）					
・史跡調査				・整備や調査の状況を報告できる掲示板・施設等の設置	
・整備事業				・史跡公園の基本計画 ・史跡公園の基本設計・実施設計 ・史跡公園整備に関する調査(内容確認調査)	
3 学校教育・生涯学習との連携					
・学校教育		・総合学習等としてのカリキュラム検討(内容等)	・総合学習等としての教育実施		
・生涯学習		・生涯学習としてのカリキュラム検討(講師・内容等)	・生涯学習としての学習機会の提供		

資料編

資料編

§1 委員会等の目的

1. 委員会等の目的と役割

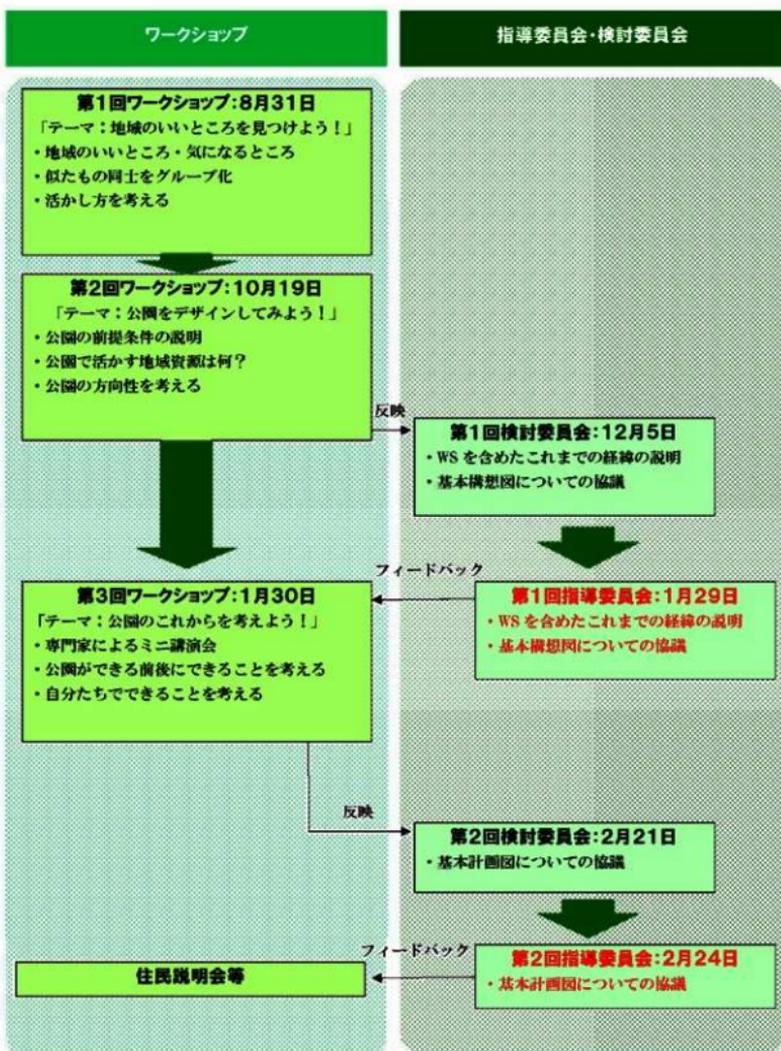
委員会等開催の目的

- ・ 客観的に計画案を協議・検討することで、よりよい公園づくりを目指す。
- ・ 周辺住民と関係者の間で、公園の資源や課題を共有し、共通の問題意識を持つ。
- ・ 計画づくりに参加することで、愛される公園づくりを目指す。
- ・ メンバー同士のつながりをつくり、計画策定後の活動への布石とする。
- ・ 中沢浜貝塚や計画策定について、周囲の住民に PR する。

委員会等の役割

	役 割	メンバー選定基準
指導 委員会	広域のかつ多面的に計画案を検討し、協議を行うことで最終的な合意形成を行う。主に次の点について確認する。 また、方向性などの案を提案する。 <ul style="list-style-type: none">➢ 史跡の重要性を踏まえたものになっているか。➢ 時代背景を踏まえたものになっているか。➢ ワークショップの意見を踏まえたものになっているか。	<ul style="list-style-type: none">・ 今後目指すべき歴史防災公園のあり方について一定の考え方を持っており、その考え方が認知されている学識経験者・ 最終決定機関としてふさわしく広域的に権威のある人物・ 教育・福祉など多面的な観点から整備計画の検討・協議ができる人物・ 史跡について専門的な内容を熟知した人物
検討 委員会	ワークショップで提案された計画が地域の実情に合ったものであるかを判断する。	<ul style="list-style-type: none">・ 地域の代表者・ ワークショップの意見の内容を熟知した人物(ワークショップメンバー代表など)
ワーク ショッ プ	<ul style="list-style-type: none">・ 計画に対して自由な意見、アイデアを提言する。・ 計画づくりを行うことで公園に愛着を持ち、今後の自主的な活動を促す・ 地元との合意形成の一環として、予想される問題・課題をあらかじめ洗い出す。	<ul style="list-style-type: none">・ 地元住民で、公園に対し、歴史、防災、教育、福祉、環境、観光、商業などの様々な立場で意見交換が可能な人物・ 今後の維持管理等に関して地域活動を盛り上げる可能性のある人物・ 様々な年代の公園利用者
事務局	各委員会の運営を行う。	市教育委員会・その他関連部署 担当コンサルタント

2. 委員会等のスケジュール



3. ワークショップの協議テーマ

回数(時期)	第1回(平成25年8月31日開催)	第2回(平成25年10月19日開催)	第3回(平成26年1月30日開催)
協議テーマ	「地域の資源を見つけよう！」	「公園をデザインしてみよう！」	「公園のこれからを考えよう！」
ワークショップの目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の目的と内容を把握する。 ・ 中沢浜貝塚を含めた地域の資源を改めて見直し、共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回までの協議内容を把握する。 ・ 地域の資源を活用した公園デザインを考え、共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回までの協議内容を把握する。 ・ 今後どのように公園づくりや維持管理に関わっていけるかを考える。
ワークショップの内容構成	<p>① 今回の経緯の説明 ⇒今回のWSの目的と中沢浜貝塚について簡単に説明した。</p> <p>② 「地域の資源を見つけよう！」 ⇒中沢浜貝塚を含めた地域全体の「いいところ」「気になるところ」について、フセンに書き出してもらい、活かし方について、グループごとに話し合った。 ⇒各グループの作業内容を発表して、全体で共有した。</p> <p>③ おわりに ⇒ワークショップの感想を各自書いていただいて、閉会。</p>	<p>① 前回の復習 ⇒前回WSの内容について簡単に説明した。</p> <p>② 「公園をデザインしてみよう！」 ⇒どんな公園にしたいかを自己紹介 白地図に書き込んで共有し、模型づくりを行った。 ⇒各グループの模型を発表して、全体で共有した。</p> <p>③ おわりに ⇒ワークショップの感想を各自書いていただいて、閉会。</p>	<p>①ミニ講演会 ⇒渡辺 誠先生(名古屋大学名誉教授)による中沢浜貝塚についてのミニ講演会</p> <p>②「公園のこれからを考えよう！」 ⇒委員会での基本構想案について説明を行った。 ⇒今後の定期的な維持管理スケジュール等について意見やアイデアを出しながら、ワークショップでの総意をとりまとめた。 ⇒公園のデザインよりも、整備された後の日常利用や維持管理のしやすさなどを重視して話を進めた。</p> <p>④ おわりに ⇒ワークショップの感想を各自書いていただいて、閉会。</p>
ワークショップの様子			

4. 委員会の協議テーマ

回数（時期）	第1回		第2回	
委員会	検討委員会（12月5日）	指導委員会（1月29日）	検討委員会（2月21日）	指導委員会（2月24日）
協議テーマ	基本構想		基本計画	
委員会の目的	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップの内容等を通じて計画地の現状や課題を把握し、総合的な課題を専門的な立場から充実を図る。 総合的な課題に基づき、計画の基本方針案を立案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップで提案された、導入すべき機能を専門的な立場から充実を図る。 導入すべき機能に基づき、ゾーニング案を立案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップで提案された、平面配置計画を専門的な立場から充実を図る。 平面配置計画に基づき、各施設内容を立案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップで提案された管理・運営計画を専門的な立場から充実を図る。 ワークショップ・委員会を総括し、基本計画説明書を決定する。
委員会の内容構成	<p><u>委嘱状交付式を別途行う</u></p> <p>① <u>開会</u> ⇒教育委員会のあいさつ ⇒委員長を選出後、委員長あいさつ</p> <p>② <u>委員会資料の説明</u> ⇒委員会等の構成や全体のスケジュールの説明 ⇒ワークショップの検討結果として、委員会資料の説明を行う。</p> <p>③ <u>協議・検討</u> ⇒委員長が座長となり協議・検討を進め、指導委員会に語る基本構想を決定する。</p> <p>【協議内容】 ・ 基本構想</p> <p>④ <u>閉会</u> ⇒次回の予定等を連絡し閉会する。</p>	<p><u>委嘱状交付式を別途行う</u></p> <p>① <u>開会</u> ⇒教育委員会のあいさつ ⇒委員長を選出後、委員長あいさつ</p> <p>② <u>委員会資料の説明</u> ⇒委員会等の構成や全体のスケジュールの説明 ⇒ワークショップ・検討委員会の検討結果として、委員会資料の説明を行う。</p> <p>③ <u>協議・検討</u> ⇒委員長が座長となり協議・検討を進め、基本構想を決定する。</p> <p>【協議内容】 ・ 基本構想</p> <p>④ <u>閉会</u> ⇒次回の予定等を連絡し閉会する。</p>	<p>① <u>開会</u> ⇒教育委員会のあいさつ ⇒委員長あいさつ</p> <p>② <u>委員会資料の説明</u> ⇒前回委員会の復習 ⇒ワークショップの検討結果として、委員会資料の説明を行う。</p> <p>③ <u>協議・検討</u> ⇒委員長が座長となり協議・検討を進め、指導委員会に語る基本計画を決定する。</p> <p>【協議内容】 ・ 基本計画</p> <p>④ <u>閉会</u> ⇒次回の予定等を連絡し閉会する。</p>	<p>① <u>開会</u> ⇒教育委員会のあいさつ ⇒委員長あいさつ</p> <p>② <u>委員会資料の説明</u> ⇒前回委員会の復習 ⇒ワークショップ・検討委員会の検討結果として、委員会資料の説明を行う。</p> <p>③ <u>協議・検討</u> ⇒委員長が座長となり協議・検討を進め、基本構想を決定する。</p> <p>【協議内容】 ・ 基本計画</p> <p>④ <u>閉会</u> ⇒今後の予定等を連絡し閉会する。</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想（概要版） 		<ul style="list-style-type: none"> 基本計画（概要版） 	
備考	<ul style="list-style-type: none"> 翌日のワークショップでは、委員長による地域住民に向けたミニ講演を実施。 			

§2 ワークショップ開催概要

1. 第1回ワークショップ

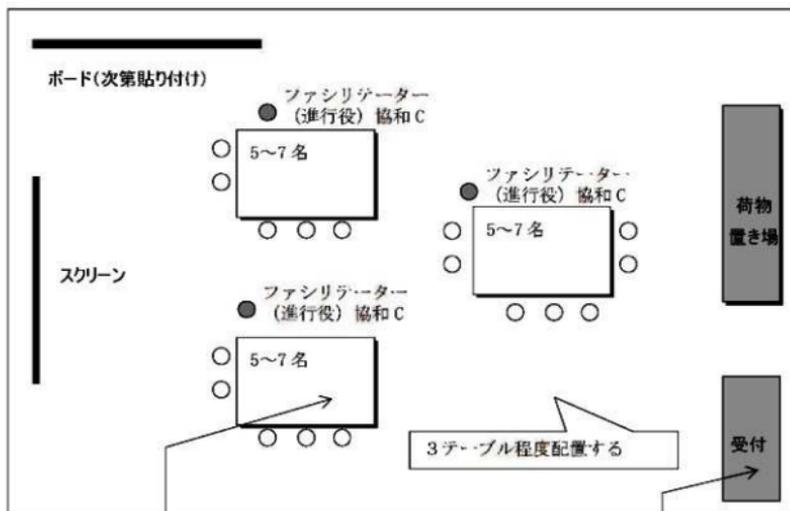
(1) 運営計画

協議テーマ「地域のいいところを見つけよう！」

- ・ 今回の目的と内容を把握する。
- ・ 中沢浜貝塚を含めた地域の資源を改めて見直し、共有する。

【日時・会場】平成25年8月31日(土)19:00～21:00 広田小学校体育館

【配置計画】



【机上】

- ・ グループ名を書いた紙(円柱状)
- ・ 計画地の全体図面(大判・計画地周辺)
- ・ フェン
- ・ 筆記用具
- ・ 名札(つりさげ式)

【会場で準備するもの】

- ホワイトボード(あれば)
- 机、いす

● 住民配布資料

- 次第
- 感想記入シート

- ・ 出欠の確認
- ・ 資料の配布

【コンサルタントが準備するもの】

- グループ名を書いた紙(円柱状)
- 計画地の全体図面
- フェン・色紙 人数分
- 筆記用具 人数分
- 受付用名簿(記入式)
- パソコン
- お茶・子供用お菓子
- デジカメ(数台)

【市でご準備いただくもの】

- プロジェクター
- スクリーン

【スケジュール】

会場は17時過ぎから準備を行い、18時～スタッフミーティング

席順は自由。後ほどグループ分けする。

1. 開会 19:00

2. (5分) あいさつ

- 開会のあいさつ（陸前高田市教育委員会）

3. (10分)

- アイスブレイク<グループ分け>

4. (20分) 今回の経緯の説明

- ・ 本日のスタッフの紹介。ワークショップメンバーの紹介は、後ほどグループごとに行う。
- ・ 今回の経緯と作業内容の説明（協和コンサルタンツ 佐藤）
プロジェクターを使用して、今回の経緯と作業内容についての説明を行う。
- ・ これまでの経緯について、必要に応じて補足説明をする（生涯学習課）

5. (10分) 自己紹介

- ・ グループ内で、自己紹介を行う（一人2～3分）。

6. (70分) グループディスカッション「地域のいいところを見つけよう！」

- (1) 「いいところ」「気になるところ」を挙げる（40分）
 - 中沢浜貝塚を含めた地域（対象地域は計画地から歩ける身近なところ）の「いいところ」「気になるところ」をフセン（ポストイット）に各自書き込む。
 - 書き終わったら、グループ内で発表し、同じもの似たものをグループ分けする。
 - グループ分けしながら、地域の資源について、再認識する。
 - 時間がある場合は、計画地で活かしたいものについてもディスカッションする
- (2) 発表（30分）
 - 各グループの発表（10分×3グループ）

7. (5分) 閉会

次回のおおむねの開催日について説明して、閉会する。

【地域のニーズを引き出す具体的な手法】

計画地周辺の『いいところ』と『気になるところ』を探そう

【概要】

地区の将来を考えていきながら、地区の「いいところ」「気になるところ」をフセンに書き込み、フセンを地図上で整理しながら、地区の魅力や課題を探り出していく。

【手法】

① 自己紹介（10分）『では、自己紹介をお願いします！』

- 各委員から簡単に自己紹介してもらう。（できれば、地図上で住んでいる場所を示してもらおう。）
- もちろん、事務局も自己紹介を行う。

③ フセンの記入（10分）『ではいいところと気になるところをフセンに書きましよう。〇時〇分くらいまで各自書き込んでください。』

- 地区の「いいところ」「気になるところ」をフセンに書いてもらう。
- フセンの色の確認と、記入時の注意事項について再度確認する。

黄色フセン

地域の「いいところ」を記入

赤色フセン

地域の「気になるところ」を記入

④ フセンの貼り付け（30分）『だいたいできたようですので、順に発表しましょう！』

- メンバーひとりひとりがフセンを発表しながら該当する場所に貼り付けていく。
- 話し合いで出された意見についてもフセンに書き、どんどん張り出す。

『多い意見をグループ分けしてみましょう！』

- 話し合いをしながら、似たものを集めてグループ分けし、グループのタイトルを決める。さらに多かった意見について、公園での活かし方などの意見を聞く。

グループタイトル

黄色フセン

黄色フセン

黄色フセン

黄色フセン

赤色フセン

『グループ分けができれば、発表します。発表する方を決めてください』

- 発表に備えて、発表者を決定する。

⑤ グループ発表（30分）

- 地図とフセンをもとに、グループごとの発表を行う（1グループ1～2分程度）。
- グループの発表について、意見交換したいことがあればツリートークを行う時間を設ける。
- 最後に、今日の作業を今後どのように計画に活用するのかについて、説明をする。

(2) 案内チラシ

地域の皆様へ

各戸1枚ずつお取りください

中沢浜貝塚歴史防災公園

「私たちの公園」を
私たちの手でつくりませんか

公園づくりワークショップを開催します

陸前高田市では、中沢浜貝塚を歴史防災公園として整備するため、基本構想・基本計画の策定を進めています。

この歴史防災公園の主な利用者は、この地域にお住いの皆さんになります。『どんな公園がいいのか』一緒につくってみませんか。

この公園づくりワークショップでは、中沢浜貝塚を含めた身近な地域を改めて見直し、地域に役立つ公園づくりを皆さんで話し合います。

グループごとに作業をしながら、話を進めますので、難しいことはありません。小学生くらいのお子さんも一緒に作業ができますので、お子さん連れも歓迎です。

気軽にご参加をお待ちしております。

『こんな公園あったらいいな』わいわいと話をしてみませんか？

●とき

8月31日(土)
19:00~21:00

●ところ

広田小学校体育館

●内容

「地域のいいところを見つけよう！」

グループごとに作業をしながら、地域のいいところを再発見しましょう。

●今後の予定(公園づくりの集まりは、3回を考えています。)

第2回：10月頃予定「公園のデザインを考えよう！」みんなで簡単な模型を作ります。

第3回：12月頃予定「公園のこれからを考えよう！」貝塚の歴史のやさしい講演を聞きます。



みんなで作業をしながら
公園づくりをしよう!



公園の模型づくり

※地域の方なら誰でも参加できます。お子さん連れの参加大歓迎☆

※事前申し込みの必要はありません。

●お問い合わせ / 陸前高田市生涯学習課 曳地、桐木
TEL: 54-2111 (内線261)

(3) 配付資料 (次第)

中沢浜貝塚歴史防災公園

「私たちの公園」を
私たちの手でつくりましょう!

第1回公園づくりワークショップ

本日のメニュー

平成25年8月31日(土) 19:00~21:00

広田小学校体育館

●内容

「地域のいいところを見つけよう！」

グループごとに作業をしながら、地域のいいところを再発見しましょう。

●進め方

1. はじめに

市役所からのあいさつやこの集まりについての説明をします。

2. グループ分け

ちょっとしたクイズをしながら、グループ分けをします。

3. 公園づくりワークショップの作業

中沢浜貝塚周辺の「いいところ」と「気になるところ」を見つけます。

フセんに書く作業をしながら、グループ内で考えていきましょう。

皆さんの意見をもとに、「公園での活かし方」についても考えます。

4. グループ発表

作業が終わったら、グループの代表の方が発表します。他のグループではどんな話がでたかな？

最後にアンケートへの記入をお願いします。



何か分からないことがあれば、グループ内のスタッフまで気軽に声をかけてください。

●今後の予定 (公園づくりの集まりは、今回を含めて3回を考えています。)

第2回：10月頃予定「公園をアサインしてみよう！」

みんなで公園の簡易な模型を作ります。

第3回：12月頃予定「公園のこれからを考えよう！」

専門家の方から貝塚の歴史の分かりやすい講演を聞きます

※地域の方なら誰でも参加できます。次回もご家族・お友達をお誘いの上、参加してください。

●お問い合わせ / 陸前高田市生涯学習課 曳地、堀木

T C L : 54-2111 (内線261)

(4) フェスの内容

【チーム1】チーム長野

	項目	良いところ	気になるところ
チ ー ム 長 野	中沢浜・泊地区	人、口は悪いが根はよい人	広域的な避難路がない
		浜の人（裏表の少ない人間性、あたたかみのある所）	高田の中心地から遠い
		コミュニティ単位（行屋）でのまとまりがよい	道がせまい
		県立水産高校を造り上げた地区住民の熱意	アクセス道がせまい
			住民が良くわかっていない
			地元をよく解っていない
			人が集まる場所がない
	自然環境	多様な自然環境（ハマナデシコ・アオスジアゲハ・タブノキ）	
		海と山どちらもある良いところ	
		冬はあたたかい	
		あたたかい（気候）	
	公園対象地	景観がよい	高低差がある
		湊の景色が素晴らしい	夜は真っ暗
		海の眺めがよい	
	要望	史跡外にガイダンス施設が欲しい	
		小中学生が学べる施設が欲しい	
ヘリコプターが止まれる場所（芝生とする）			
海側県道沿いに駐車場が欲しい			
人が集える空間が必要			

【チーム2】

	項目	良いところ	気になるところ	
チ ー ム ②	道路・施設（インフラ）	漁港から避難する最短距離	アクセス狭い	
			駐車できない	
			崖がが高い（海がみえないと不安）	
			震災後の道路計画との係わり	
			海岸線にあった公衆トイレがなくなった	
			新警備隊がない	
	地形・自然		平野少ない	
			風当たりが強い	
			段差が多い	
	風景・自然		日当たりが良い	
			見晴らしが良い	
			沢水最高、地ト水豊富	
			松、絶景ポイントー震災時は皆が避難した	
			風（西風強）風力発電最適	
			ウォーキングコースによい	
			健康づくりコース（ウォーキングコースと人が集うエリア分け）	
			海が見える（景色が良い）	
	装 望		星がきれい	
			海を含めた公園	なぜこの時期に歴史公園？（移転等優先事項があるのでは？）
			博物館もきてほしい	ワークショップをするという認知（広報）をもっとしてほしいかった
		避難道路	防災も人事だが歴史公園と兼ねるのか	
		花壇づくり	家屋移転がすべて終了済みか？	
		花壇や畑をつくりたい		
		貝塚の特長が目で見てひとめでわかるように		
		子供たちが遊べる公園が必要		
		子供たちは公園づくりに興味があった		
		今日の件は小学生から情報があった		
		水産のルーツを利用した何かできないか		
		浜までしこを公園に、震災でなくなった岩が北限		
	堤防の高さはある程度におさえては？			
農村漁業	農・漁業最適			

【チーム3】チームドンドン

	項目	良いところ	気になるところ
チ ー ム ド ン ド ン	芝生・ヘリポート・避難路	芝生を植えてヘリポートにする	芝生にしてもらいたい
		海岸や道路から公園に避難する階段・スロープ等を作ったほうがよい	広田半島に道路計画があるので道路から貝塚公園にアクセスしてもらいたい（避難路も兼ねる）
			公園に避難するためにロープ等を用意する（海岸道路から避難するため）
	風が強い・風力発電	風が強い利点で風力発電を！資料館・博物館の電源とする	冬期、北西の風が非常に強い
			冬場の風が強い
			風が強い
	案内板		中沢浜貝塚に案内板が少ない
	地域のいいところ・気になるところ	人がいい	泉沼広田半島線が市道になる
		天然の良港	水路、小川があるが暑よりよくない
		前回の津波の石碑が設置されている	
		漁業施設、排水が整備済み	
	砂地・水はけ良い 急傾斜地	砂地の為、水はけがよい	貝塚付近も含めて砂地であり
		水はけがよい	砂地
		傾斜地を埋めてフラットにする	貝塚付近も含めて危険、傾斜地帯にもなっている
	高台、景色良い、日当たり良い	高台にあり日当たりが良い	
高台である			
見晴らしがよい			
四阿みたいのを建てたほうがよい			
漁港がちゃんとみえる			
	海がみえる		
	景色がよい		

(5) アンケート集計

Q1【ワークショップはどうでしたか？】

回答	第1回
1 非常に楽しかった	6
2 まあまあ楽しかった	6
3 あまり楽しくなかった	0
無回答	0
合計	12

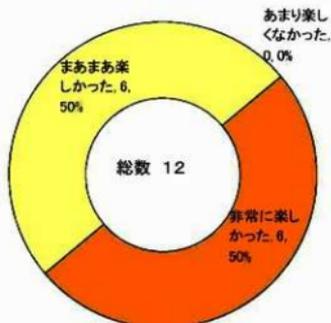
Q2【意見、質問ができましたか？】

回答	第1回
1 大いに言えた	6
2 少しは言えた	5
3 あまり言えなかった	1
無回答	0
合計	12

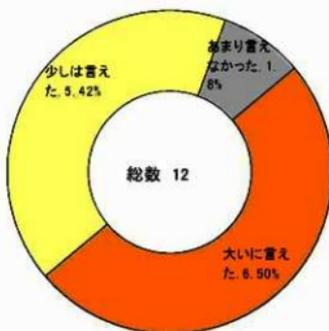
Q3【次回の開催希望日時】

回答	第1回
1 平日夜	3
2 土日昼間	3
3 土日夜	4
無回答	2
合計	12

【第1回】ワークショップはどうでしたか？



【第1回】意見が言えましたか？



【第1回】次回開催希望日時



【感想】

広田の自然理解を深めた。正直今晚の催しを知らなかった。放送大学の研修を活かして今回のワークショップに活用したい

集団移転関係の仕事をしているが、移転だけでなく広田町づくりの重要なテーマでもあり興味を持って参加した

貝塚の活用の第一歩としてとてもうれしく思い、今後も楽しみです。一般市民としての希望等話せる機会でもあり良かったと思います

人が集まっていないのが残念。男女比、世代別等考えていただければ

女性や子ども達のより多くの参加を促すような企画であって欲しい

大体の意見は出たと思う。出席者が多くなってもほとんどこれと変わらないと思う。しかし一度は史跡周辺の人たちの意見や昔の話も聞いてみたいと思った。

みんなの意見が目に見えた状態で表わされてよかった

・地元(中沢浜地区)の参加者が少ない(周知方法を検討しては?)・会場を中沢公民館では?

夜間だと婦人や女性が参加できないのではないかと?女性や子どもの意見を反映させるために、出前的に保育園や小中学校への提示等も工夫すべき

中沢浜貝塚歴史防災公園

公園づくりニュース

「私たちの公園」を
私たちの手で作りましょう!

□ 創刊号 □
平成25年9月発行

8月31日(土)に開催された第1回ワークショップの内容をお知らせします。

★ 第1回ワークショップを開催しました

- 8月31日(土) 19～21時、広田小学校の体育館で、中沢浜貝塚歴史防災公園の第1回ワークショップを開催しました。
- 中沢浜貝塚は、昭和9年に歴史跡に指定されました。東日本大震災後、避難路や避難場所の確保が急務となり、中沢浜貝塚を歴史防災公園として整備するため、基本構想・基本計画の策定を進めています。
- この歴史防災公園の主な利用者は、この地域に住まう皆さんになります。今回の公園づくりワークショップの目的は、『どんな公園がいいのか』一層に考えてつくっていくことなので、ワイワイがやがや考えたする気軽な会を開催しました。

ワークショップのテーマ「地域のいいところを見つけよう!」

初めてのワークショップは、3つのグループに分かれて、地域のいいところ・気になるところについて話し合いました。最初はちょっと緊張した様子でしたが、だんだんうち解けてきたようです。



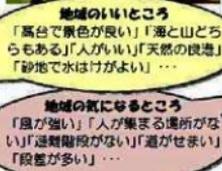
まず、いいところ・気になるところを書きます



いいところ・気になるところを貼り付けました



最後にグループごとの発表!



地域のいいところ
「高台で景色が良い」「湖と山どちらもある」「人が多い」「天然の良港」「砂地ではげがよい」...

地域の気になるところ
「風が強い」「人が集まる場所がない」「避難階段がない」「道がせまい」「段差が多い」...

- 今後の予定(公園づくりの集まりは、今回を含めて3回を考えています。)

第2回: 10月頃予定「公園をデザインしてみよう!」

みんなで公園の簡易な模型を作ります。お子さんと一緒に参加できます。

第3回: 12月頃予定「公園のこれからを考えよう!」

専門家の方から中沢浜貝塚の歴史について、分かりやすい講演を聞きます。

※地域の方なら誰でも参加できます。次回もご家族・お友達をお誘いの上、参加してください。

- お問い合わせ / 陸前高田市生涯学習課 豊地、桐木

TEL: 54-2111 (内線261)

2. 第2回ワークショップ

(1) 運営計画

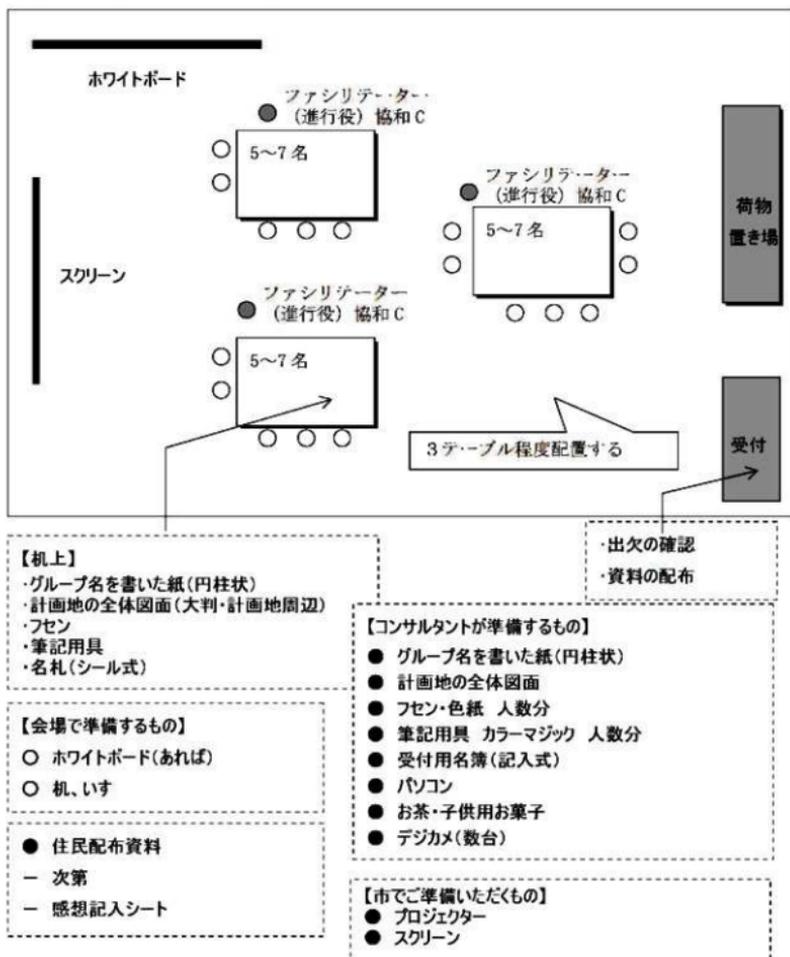
協議テーマ「公園をデザインしてみよう！」

- ・ 今回の目的と内容を把握し、公園で活かす地域資源やデザインの方向性を決める。

【日時】10月19日(土)

【会場】中沢浜公民館

【配置計画】(配置は会場の広さや配置状況によって変更する)



【スケジュール】

会場は1時間半前から準備を行い、1時間前～スタッフミーティング、30分前から受付開始。
席順は自由。後ほどグループ分けする。

1. 開会

2. (5分) あいさつ

- 開会のあいさつ（陸前高田市教育委員会）

3. (10分)

- アイスブレイク<グループ分け>

4. (20分) 今回の経緯の説明

- ・ 本日のスタッフの紹介。ワークショップメンバーの紹介は、後ほどグループごとに行う。
- ・ 前回の内容の復習と計画地の現況、今日の作業についての説明（協和コンサルタンツ）
プロジェクトを使用して、説明を行う。

5. (10分) 自己紹介

- ・ グループ内で、自己紹介を行う（一人2～3分）。
- ・ 公園内でやりたいことなどを一言添えてもらう。

6. (70分) グループディスカッション「公園をデザインしてみよう！」

（1）公園をデザインする（40分）

- 前回ワークショップの意見などから、あらかじめ想定される施設等を挙げて、どこがいいのか考えて、絵を描き込んだりする。

（2）発表（30分）

- 各グループの発表（10分×3グループ）

7. (5分) 閉会

次回のおおむねの開催日について説明して、閉会する。
感想記入シートに感想を書いていただく。

(2) 案内チラシ

地域の皆様へ

中沢浜貝塚歴史防災公園

各戸1枚ずつお取りください

「私たちの公園」を
私たちの手で作りませんか

公園づくりワークショップを開催します

陸前高田市では、中沢浜貝塚を歴史防災公園として整備するため、地域住民の皆さんと話をしながら、基本構想・基本計画の策定を進めています。

8月31日には初回のワークショップを開催し、わいわいと話をしながら、地域のよいところについて、たくさんのご意見をいただきました。

2回目となる今回のワークショップでは、簡易な模型をみなさんと作って、公園をデザインしていく予定です。『どんな公園がいいのか』一緒につくってみませんか。

グループごとに作業をしながら、話を進めますので、難しいことはありません。小学生以上でしたら一緒に作業できるので、お子さん連れも大歓迎です。

皆さんの気軽なご参加をお待ちしております。

みんなと公園をデザインしてみませんか？

●とき

10月19日(土)

13:30~15:30

●ところ

中沢公民館

●内容

「公園をデザインしてみよう！」

グループごとに、簡易な模型を作りながら公園をデザインしてみます。

●今後の予定(公園づくりの集まりは、3回を考えています。)

第3回：12月頃予定「公園のこれからを考えよう！」貝塚の歴史のやさしい講演を聞き、これからの公園の使い方などを考えます。



ここを巡って
散策したい!

こんな公園がいい...

ここで遊びたい!

※地域の方なら誰でも参加できます。お子さん連れの参加大歓迎☆

※事前申し込みの必要はありません。

※前回(8月31日開催)に参加していない方も参加できます。

●お問い合わせ / 陸前高田市生涯学習課 埴地、榎本
TEL: 54-2111 (内線261)

(3) 配付資料 (次第)

中沢浜貝塚歴史防災公園

「私たちの公園」を
私たちの手で作りましょう!

第2回公園づくりワークショップ

本日のメニュー

平成25年10月19日(土) 13:30~15:30
中沢公民館

●内容

「公園をデザインしてみよう！」

グループごとに作業をしながら、公園をデザインしてみましょう。

●進め方

1. はじめに

市役所からのあいさつやこの集まりについての説明をします。

2. グループ分け

ちょっとしたクイズをしながら、グループ分けをします。

3. 公園づくりワークショップの作業

まずは自己紹介。公園でやりたいことも一言で教えてください。

公園のデザインを図面に描いていきます。

どんな公園になるかな? 楽しみながら作業をしてみてください。

4. グループ発表

作業が終わったら、グループの代表の方が発表します。他のグループではどんな公園かな? 最後にアンケートへの記入をお願いします。



何か分からないことがあれば、グループ内のスタッフまで気軽に声をかけてください。

●今後の予定 (公園づくりの集まりは、あと1回を考えています。)

前回: 8月31日開催「地域の資源を見つけよう！」

地域のいいところと気になるところを見つけました。

第3回: 12月頃予定「公園のこれからを考えよう！」

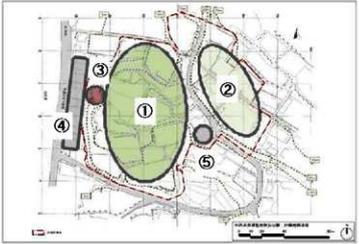
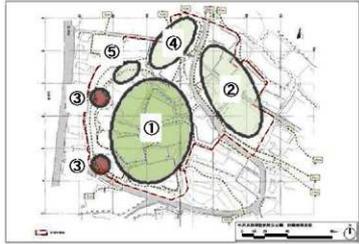
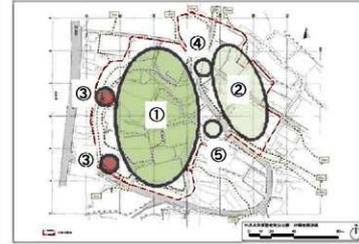
専門家の方から貝塚の歴史の分かりやすい講演を聞きませ

※地域の方なら誰でも参加できます。次回もご家族・お友達をお誘いの上、参加してください。

●お問い合わせ / 陸前高田市生涯学習課 曳地、桐木

TEL: 54-2111 (内線261)

(4) フェスの内容

項目	なかざはまガールズ (1班)	秀ちゃん (2班)	チーム長野 (3班)
発表の様子			
各班の提案内容 平面位置図	 <p>①の導入機能・施設</p> <ul style="list-style-type: none"> 芝生広場 (ハリポート) と周遊園路 (ウォーキングコース) 子供の学習・遊び場 休憩施設 (四隅) 桜や紅葉木の植栽、花壇 <p>②の導入機能・施設</p> <ul style="list-style-type: none"> 広場と周遊園路 (ウォーキングコース) 人々の遊び場 (ゲートボールや絵籠りなどができる広場) <p>③の導入機能・施設</p> <ul style="list-style-type: none"> 遊覧施設 (四隅) <p>④の導入機能・施設</p> <ul style="list-style-type: none"> 駐車場、トイレ、案内板 <p>⑤の導入機能・施設</p> <ul style="list-style-type: none"> 身障者用駐車場 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ソーラー照明灯 (固定式) 新規泉造からのアクセス路拡幅 将来的に博物館を誘致 	 <ul style="list-style-type: none"> 休憩施設 (四隅、テーブル、椅子、水飲み場) 子供の遊び場 (アスレチック、手舎を利用した滑り台) アップダウンのあるウォーキングコース <ul style="list-style-type: none"> お祭りの練習ができるくらい平らで広い広場 学什毎に花壇を割り当てる (親子とともに参加) <ul style="list-style-type: none"> 遊覧施設 (2箇所) ※ロープを常備 <ul style="list-style-type: none"> 子供のスペース ※ブランコ、シーソー、滑り台など、海沿いの公園にあったもの 竹藪はそのままでもよい <ul style="list-style-type: none"> どこかに駐車場とトイレ 海側を通らないアクセス道 発想した後、博物館も誘致 	 <ul style="list-style-type: none"> 花壇 (桜) 広場、四季の草花 芝生広場 健康遊具 (ウォーキング) 園路 ※遊歩解消 ハリポート (個人的には反対!) <ul style="list-style-type: none"> 遊覧施設 (2箇所) ※海辺で働く人のための遊覧路 <ul style="list-style-type: none"> トイレ 展示施設 (遊覧もできるように) <ul style="list-style-type: none"> 照明灯 新規泉造からのアクセス路拡幅

(5) アンケート集計

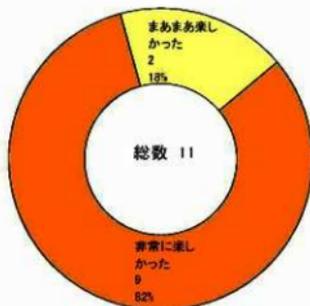
Q1【ワークショップはどうでしたか？】

	回答	第1回
1	非常に楽しかった	9
2	まあまあ楽しかった	2
3	あまり楽しくなかった	0
	無回答	0
	合計	11

Q2【意見が言えましたか？】

	回答	第1回
1	大いに言えた	8
2	少しは言えた	3
3	あまり言えなかった	0
	無回答	0
	合計	11

【第2回】ワークショップはどうでしたか？



【第2回】意見が言えましたか？



【感想】

アスレチック、写真等持ってくれば良かったと！！（うまく伝えられなかったので！！）アスレチックあれば、子供達さっと、集まります。親や保育園の先生達も喜ぶはず。若い人達の話し方でいいことができると思います。

若い人達の意見が活発で良い公園になることでしょう。

もっと人数、子供達の意見も聞きたい。

貝塚ということであれば、大木を植えることは反対です。

参加者が少ないのが残念でした。大変良い時間でした。3回目もぜひ参加したいです。

他のチームの考えもとてもいいと思います。三つのチームの混合でとてもよい防災公園ができるのではと思います。

高田の中心部にだけでなく、広田にも貝塚を利用した博物館や観光できる大型の公園（遠足等にも利用してもらえる）ができれば、人口流出を少しでも防げると思う。公共施設ができれば、自然に家が立ちお店等もできにぎやかになると思う。

中沢浜貝塚歴史防災公園

当日の秋晴れの空

公園づくりニュース

□ 第 2 号 □
平成25年10月発行

★ 第2回ワークショップを開催しました (平成25年10月19日)

- 秋も深まってまいりました。皆さんいかがお過ごしでしょうか。
- 中沢浜貝塚は、昭和9年に国史跡に指定されました。東日本大震災後、避難路や避難場所の確保が急務となり、中沢浜貝塚を歴史防災公園として整備するため、基本構想・基本計画の策定を進めています。
- 8月に開催された第1回ワークショップに引き続き、10月19日(土)13:30~15:30、第2回ワークショップ「公園をデザインしてみよう」を中沢浜公民館で開催しました。
- 前回は、地域の「いいところ」などを再発見したので、今回は「いいところ」を活かした公園デザインをみんなで考えてみました。どんな公園ができたかな？

■ワークショップのテーマ「公園をデザインしてみよう！」

白地図に絵を描いたり、フセンを貼ったりして、どんな公園がいろいろ考えました。

チーム1



身障者用の駐車場や桜・香だけでなく秋にも楽しめるもの！

チーム2



花畑を学校の各学年に担当てる！お祭りの練習ができる広場も！

チーム3



海辺で働く人のための避難路！体験学習施設は地域のためになる！



共通して出た意見
「避難階段」「遊歩道」「花畑」
「花見」「遊び場」
できれば
「駐車場」「トイレ」「施設」

●今後の予定(公園づくりの集まりは、あと1回の予定です)

第3回:12月頃予定「公園のこれからを考えよう！」

専門家の方から中沢浜貝塚の歴史について、分かりやすい講演を聞きます。

※地域の方なら誰でも参加できます。次回もご家族・お友達をお誘いの上、参加してください。

●お問い合わせ / 陸前高田市生涯学習課 曳地、桐木

TEL:54-2111(内線261)



3. 第3回ワークショップ

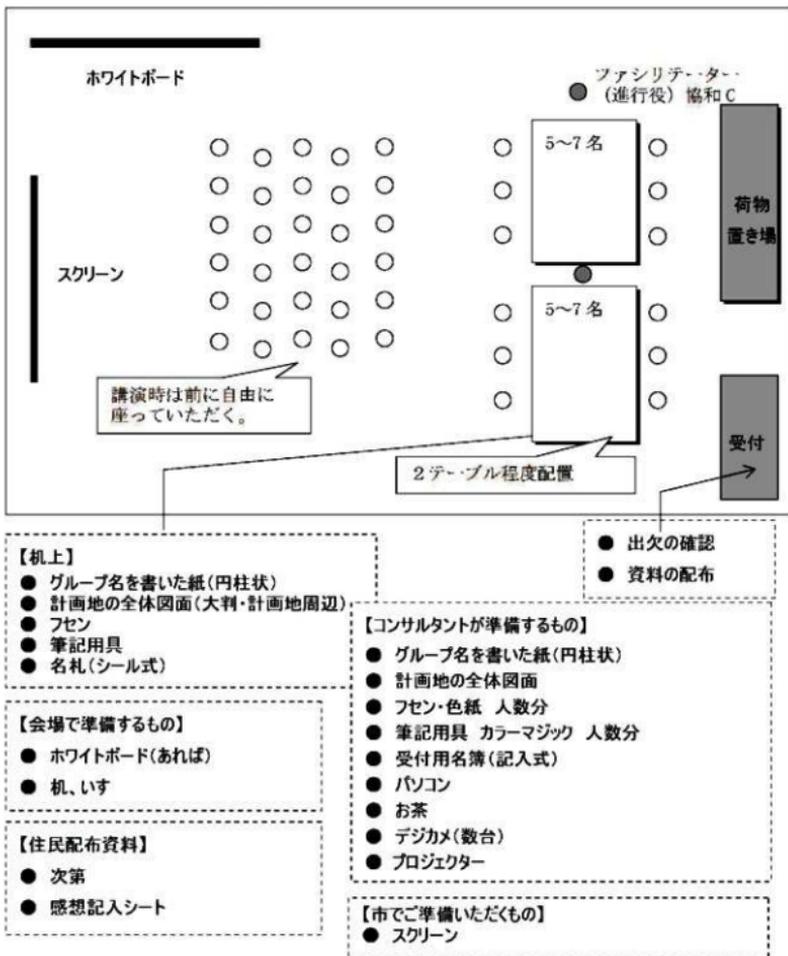
(1) 運営計画

協議テーマ「公園のこれからを考えよう！」

・今後どのように公園づくりや維持管理に関わっていけるかを考える。

【日時・会場】平成26年1月30日(木)18:30～20:30(2時間程度) 中沢浜公民館

【配置計画】(配置は会場の広さや配置状況によって変更する)



【スケジュール】

会場は1時間半前から準備を行い、1時間前～スタッフミーティング、30分前から受付開始。

席順は自由。後ほどグループ分けする。

(司会：陸前高田市生涯学習課) 全体で2時間程度

1. 開会

2. (5分) あいさつ

- 開会のあいさつ (陸前高田市教育委員会)

3. (60分) 講演「テーマ未定」

- 講師：渡辺 誠先生 (名古屋大学名誉教授)
- 中沢浜貝塚の重要性 (可能であれば、周辺住民の関わり方についてのアドバイスをいただきたい)
- 時間がある場合には、質疑応答

4. (5分)

- アイスブレイク<グループ分け>
- ・ 当社スタッフの紹介。ストレッチ、簡単なクイズ、グループ分け
- ・ 人数や時間によっては省略し、全員で話をすることも考えられる。

5. (10分) 今回の経緯の説明

- ・ 前回の内容の復習と委員会にかけた基本構想図、今日の作業、文化財の維持管理の事例についての説明 (協和コンサルタンツ) プロジェクターを使用して、説明を行う。

6. (40分) 【グループ作業】「公園のこれからを考えよう！」

(1) 公園でこれからやりたいこと (30分)

- 公園でこれからやりたいと思うことをフセンに書いていただく。
- 自己紹介をしながら、フセンを発表していただき、一人でやること、みんなでやった方が楽しいものなど、で分類しながら話を進める。

(2) 発表 (10分)

- 各グループの発表 (5分×2グループ)

7. 閉会

今後の概ねの予定について説明して、閉会する。

感想記入シートに感想を書いていただく。

(2) 案内チラシ

地域の皆様へ

各戸1枚ずつお取りください

中沢浜貝塚歴史防災公園

「私たちの公園」を
私たちの手で作りませんか

公園づくりワークショップを開催します

陸前高田市では、中沢浜貝塚を歴史防災公園として整備するため、地域住民の皆様とワークショップで話をしながら、基本構想・基本計画の策定を進めています。

8月31日と10月19日にワークショップを開催し、わいわいと話をしながら、地域のよいところや公園へのアイデアについて、たくさんのご意見をいただきました。

最終回となる今回のワークショップでは、貝塚の歴史に詳しい先生から、中沢浜貝塚の重要性などのお話をうかがって、今後の公園の使い方を話し合っていく予定です。『どんな風に公園を使いたいのか』一緒に話してみませんか。

グループごとに作業をしながら、話を進めますので、難しいことはありません。小学生以上でしたら一緒に作業できるので、お子さん連れも大歓迎です。

皆さんの気軽なご参加をお待ちしております。

公園のこれからを話し合ってみませんか？

●とき

1月30日(木)
18:30~20:30

●ところ

中沢浜公民館

●内容

「公園のこれからを考えよう！」

貝塚の歴史のやさしい講演を聴き、これからの公園の使い方などを考えます。



すぐ遊べるように...

ここでイベントを
開催したい!

ここで遊びたい!

※地域の方なら誰でも参加できます。お子さん連れも参加大歓迎☆

※事前申し込みの必要はありません。

※これまでの回に参加していない方も参加できます。

●お問い合わせ / 陸前高田市生涯学習課 奥地、柳木
TEL: 54-2111 (内線261)

(3) 配付資料 (次第)

中沢浜貝塚歴史防災公園

「私たちの公園」を
私たちの手で作りましょう!

第3回公園づくりワークショップ

本日のメニュー

平成26年1月30日(木) 18:30~20:30

中沢浜公民館

●内容

「公園のこれからを考えよう！」

グループごとに作業をしながら、これからどんな風に公園を使いたいか話しましょう。

●進め方

1. はじめに

市役所からのあいさつやこの集まりについての説明をします。

2. 講演 名古屋大学名誉教授 渡辺 誠 先生

中沢浜貝塚にお詳しい専門家のお話を聴きます。



3. 公園づくりワークショップの作業

検討委員会や拒得委員会で協議した「基本構想図」の説明をします。

次に、自己紹介。公園への期待も一言で教えてください。

公園のこれからについて、自分ができること、みんなでやった方が楽しいものを考えます。

どんな風に公園を使いたいかな? 楽しみながら話し合ってみてください。

4. 終わりに

作業が終わったら、ざっくばらんな感想などをアンケートへ記入してください。

何か分からないことがあれば、グループ内のスタッフまで気軽に声をかけてください。

●お問い合わせ / 陸前高田市生涯学習課 曳地、柵木
TEL: 54-2111 (内線261)

(4) フェスの内容

項目	フェス
防災	避難道路の整備
	防災ドリルひなんくんれん
体操	皆で体操
	中沢浜体操
	朝の体操
ボランティア・整備	中沢浜員隊防災公開作りのボランティア等で参加したい
	草刈りゴミ拾い
	草刈ボランティア
	発掘調査
学習	学校の課外学習
	今まで出た清跡の表示板作る
	屋外学習
	歴史展示から学ぶ
	社会教育施設の整備。小・中学校の学習体験の場。生涯学習の場 この地の歴史学ぶ
知ってもらおう！	ガイド
	中沢浜員隊について皆にもっと知ってもらいたい
イベント	花見
	縄文祭り
	縄文コンサート 姫神
	花見
	コンサート
	ビアガーデン
歌丁の人よびたい！コンサート	
散歩	ジョギング
	孫と遊ぶ
	散歩したい
	歴史散歩
	子供達の満足
	散歩
	遊歩道
	散歩
	ウォーキング
道路等整備願います。園路・アクセス	

(5) アンケート集計

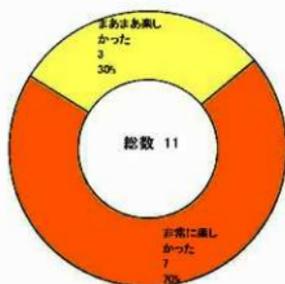
Q1【ワークショップはどうでしたか？】

回答	
1 非常に楽しかった	7
2 まあまあ楽しかった	3
3 あまり楽しなかった	0
無回答	0
合計	10

Q2【意見が言えましたか？】

回答	第1回
1 大いに言えた	5
2 少しは言えた	5
3 あまり言えなかった	0
無回答	0
合計	10

【第3回】ワークショップはどうでしたか？



【第3回】意見が言えましたか？



【感想】

現場を大事に守りながらの整備をお願いしたい

これからレクチャーが！

私は嫁に来て初めて中沢浜貝塚を知りましたので、子ども達には子供の頃から教えて欲しいです。

これからも定期的ワークショップを開いて、経過を聞かせて欲しい！

中沢浜貝塚について、講演非常に良かった。

現状を残しつつ、目に見えるように

すばらしい先生がおいでいただいたのに、住民の方少なかったのが、とても残念でした。少しずつ実現に向かっていよう、安心（少し）しました。

中沢浜貝塚のすばらしさを実感・体感できる公園ができればいいな。

屋外授業で発掘疑似体験をして、未来の考古学者を育てたい

中沢浜貝塚歴史防災公園

公園づくりニュース

□ 第 3 号 □
平成26年2月発行

★ 第3回ワークショップを開催しました (平成26年1月30日)

- 立春を過ぎましたが、寒い日が続きますね。皆さんいかがお過ごしでしょうか。
- 中沢浜貝塚は、昭和9年に国史跡に指定されました。東日本大震災後、遊覧路や遊覧場所の確保が急務となり、中沢浜貝塚を歴史防災公園として整備するため、基本構想・基本計画の策定を進めています。
- 8月と10月に開催されたワークショップに引き続き、1月30日(木) 18:30~20:30、第3回ワークショップ「公園のこれからを考えよう!」を中沢浜公民館で開催しました。
- 最初に名古屋大学名誉教授の渡辺誠先生に「中沢浜貝塚と三陸南部貝塚群」をテーマにご講演をいただきました。その後、公園でやってみたいことについて話し合いました。
- 今年度のワークショップは終了しましたが、今後も皆さんと話し合いの機会を設ける予定です。

■ 講演「中沢浜貝塚と三陸南部貝塚群」 名古屋大学名誉教授 渡辺 誠 先生

【講演内容】

- ・貝塚はゴミ捨て場ではない。人も一緒に埋葬しているので、来年も生まれ変わって欲しいという再生を願う祭りだった。
- ・日本は南北に長く、いろいろな環境があり、縄文時代の生活も異なる。周辺に生息しているものが違うから、それを獲る方法も違う。
- ・三陸南部は、外洋に出て漁をしていた重要な地域。日本水産の基礎を作ったのは縄文人だ。
- ・縄文人の骨を見ると、成人の胸に健康な歯を抜歯する習慣があったようだ。これは当時、村の組織という社会システムがあったということ。
- ・門前貝塚では、弓矢状に配置した石が見つかっている。海の方を向いており「来るな!」の忌避表示と思われる。当時の人は海をよく知っていた。このような遺跡は、世界にひとつではないか。
- ・中沢浜貝塚も、ただ貝がたくさんあるところではない。海は危険が伴うところだが、それを理解して住み続けた人々がいた。ぜひ、プライドを持って、子ども達にいいところだと伝えていってもらいたい。



貝塚のなかで貝のないところは、集落跡があるはず!

主な意見

「散歩」「ボランティア」「防災」「体保」「知ってもらおう!」「学習」「イベント」

■ワークショップのテーマ「公園のこれからを考えよう!」

公園ができれば「やりたいこと」についてみんなで意見を出しました。

話し合いの様子



これからのスケジュールが重要!

●お問い合わせ / 陸前高田市生涯学習課 曳地、桐木
TEL : 54-2111 (内線261)



§3 検討委員会開催概要

1. 第1回検討委員会

2013.12.5 13:30～15:30 陸前高田市役所第7会議室

1. 委嘱状交付
2. 開会（次長）
3. 教育委員会あいさつ（山田教育長）
4. 委員紹介
5. 委員長選出
6. 委員長あいさつ
7. 概要説明
 - ・中沢浜貝塚の概要説明(史地学委員)
 - ・基本構想に関する資料説明(協和コンサルタンツ 佐藤)
8. 議事
9. 閉会（次長）

議事要旨

（緒谷委員長）

- ・夢のような公園ができるイメージの絵であるが、ワークショップでまとめられている意見なども踏まえて、質問等があればお願いしたい。

（小松委員）

- ・公有化を進めるときにも会議などに参加していたが、夢のような計画策定が進んだことは素晴らしいことで、ぜひそれを実現してほしい。灰田半島で考えると、黒崎温泉はバスで来訪者を県内外へ送迎しているが、ミュージアムや地域を勉強する施設がないので、早急に本施設が実現しないかと思っている。観光バスなど団体利用者がトイレに立ち寄る場所もない。観光の面からも、ぜひこういう施設ができればよい。
- ・ワークショップ意見は、本当にその通りだが、新たな県道からのアクセス道路も、災害時には必要になるため、今後考えてほしい。

（清水委員）

- ・保存管理計画は平成11年に作成して、防災を含めた整備計画を設定して、今後、どのように事業化にもっていくか、説明いただきたい。移転が済まずに事業が止まってしまうこともあった。

（緒谷委員長）

- ・夢の公園を、どう実現化していくか課題である。

（大久保教育次長）

- ・過去、歴史公園を立ち上げて年次計画を進め、9割の公有化が進んだ。そこから防災の機能を含めて、歴史防災公園をつくっていきたいと考えているところであるが、9割移転の実績をふまえて、さらなる公有化を進めていきたいと考えている。

(緋谷委員長)

- ・草が生い茂っている現状で、「これからどうなるのか」という話も聞いている。移転してくれた方のことも考えて、すぐとは言わないが、市として取組を進めてほしい。
- ・あと発掘調査の話で、何にもないところでも実際に掘ってみると遺構が出てくるということもあるのではなか。

(斎藤真委員)

- ・事業スケジュールも示して欲しい。
- ・次回のワークショップには、市内の小中学校の先生にも出席いただいて、意見をいただきたいらどうか。

(小松委員)

- ・あたかも買収して移転が進み、公園ができるような話になっているが、誰の了解でこれをつくっているのかという話にならないか懸念がある。

(大久保教育次長)

- ・事業スケジュールについては今後検討していくが、まず今年は全体の青写真をつくることから始めていることを了承願いたい。

(松村委員)

- ・子供たちに話を聞くと、公園が欲しい、広い場所をかけまわりたいという。子供たちは、公園に楽しみにいくと思うが、学ぶ場所としての施設については、どう考えているか。ただ遊ぶだけでなく、教材として活用していければと思う。
- ・また防災の話では避難広場となっているが、安心して避難できるのは広場だけでなく、建物も考えられないか。震災時の話を聞くと、とにかく寒かったとの話が多い。

(斎藤真委員)

- ・中沢浜貝塚の歴史をどう展示していくか。竪穴式住居を復元できないかとも思うし、ボランティアの育成や市外からの来訪者に説明できるようなものや地元の人が活動できるような場所、あるいは体験施設など、ものづくりを通して縄文時代を説明することなどもできないか。

(緋谷委員長)

- ・文化庁との協議で、どの程度まで可能となるか確認する必要がある。
- ・津波に対する記念碑は、灰田小学校にある津波記念碑のほか7か所にある。中沢浜貝塚の石碑をはじめ、7つのうち6箇所は、見事に残っており、先人の知恵はすごいものである。石碑は残して継承していきたい。

※石碑内容(大地震のあとには津波が来るよ) (地震が来たら高所へ集まれ) (欲を捨てて逃げろ) (低いところに住家を建てるな)

(横田委員)

- ・検討会に参加するまで知識不足だったが、対象地は 10m くらい津波をかぶったのであれば、ここまで復がきたという表示をつくったらどうか。
- ・東北大学にある出土品（人骨）は、現在計画地内にも解説板があるようだが、アピールにつながる。
- ・全体の計画としては夢があり、防災という意味ではソーラー照明や避難する建物があるとういかなと思うが予算規模との関係があるかと思う。
- ・また、芝生広場でグランドゴルフができればよいかとも思うが、人が集まりすぎても問題になるかも知れない。

(斎藤篤委員)

- ・人骨以外にも、骨角器や琥珀玉など見事なものである。どのようなルートで入ってきたのかは分かっていない。

(細谷委員長)

- ・翡翠や黒曜石、ルビーなどの石材、石器などもあり、体験して学習できるようなプログラムが大変重要である。

(清水委員)

- ・ぜひ学ぶ場所として活用を図りたい。中沢浜貝塚からの出土品はどこにあるのか。
- ・史跡の貴重な財産であり、まだ全てを発掘しきれてないと思うが、今後調査する予定はあるのか。

(曳地学芸員)

- ・現在の出土品は博物館が津波被害を受けたため、文化財レスキュー活動で全国の博物館に分散している状態である。
- ・国の史跡の基本方針は、そのまま何もせず現状保存をすることであり、大々的な調査はしていない。国史跡に重機をいれることすら難しい。まだ計画地内に 2 軒残っているが、貴重さをアピールするためにも、出土品などを前面で紹介していきたい。

(斎藤篤委員)

- ・人骨 23 体もアピールできればと思う。

(菅野委員)

- ・計画地は、高台になっているが、全体が砂地であり、なぜ砂の層が盛り上がったのか不思議である。猛烈な風が吹き、砂が溜まったと聞いたこともあるが、各土層が平たくなっているので、違うようである。

(斎藤百委員)

- ・貝塚があるのは知っていたが、矢尻など小さいころみた程度で意識はあまりなかった。公園のイメージはよいと思うが、予算を確保できるのか心配である。
- ・公有化のため低地に移って被災した人もいる。その方々のためにも、早急に事業を進め

ていただきたい。

(楠谷委員長)

- ・縄文時代の女性の食文化、衣文化にも関心があるが、ぜひ女性の立場からの意見を今後
もお願いしたい。
- ・全員から忌憚ない意見を伺ったので、市としての考え方を踏まえながら指導委員会への
資料に反映してほしい。

(吉田係長)

- ・次回は1月か2月を予定しており、日程確定後連絡をする。

(大久保教育次長)

- ・ワークショップでは夢のある話が多く聞け、今回の検討委員会はより現実的な意見を聞
くことができたので、事務局で調整してから指導委員会を開催したい。

以上

2. 第2回検討委員会

2014.2.21 13:30~15:30 陸前高田市役所第5会議室

1. 開会

2. 教育委員会あいさつ（山田教育長）

3. 委員長あいさつ

4. 概要説明

- ・基本計画に関する資料説明(協和コンサルタンツ 鈴木)

5. 議事

6. 閉会

（緋谷委員長）

- ・説明にあった通り、防災と史跡の2段階で整備を進めていくということで先の長い話になる。
- ・現在は、現地に行っても何一つ誇れるものがない中沢浜の価値や重要性を、地元や子供たちにどう伝えていけばよいか、ソフト面を含めて意見をいただきたい。
- ・例えば、総合学習の授業は現在も行われているか。

（山田教育長）

- ・総合学習は現在も行われており、総合学習の中に位置づけていくことは可能である。ただし、教材などの情報がない。

（緋谷委員長）

- ・その意味では、仮設のガイダンス施設があると良いが、設置予定場所はどのあたりか。

（事務局）

- ・想定は史跡内となるが、管理をどうするかが課題だと思っている。

（緋谷委員長）

- ・文化財の盗難被害のニュースもある。

（小松委員）

- ・説明するには何かが必要で、レプリカ等でもよい。現在の原っぱのままでは何もわからない。発掘調査が済めば、いろいろと展示できるものがあるのではないか。

（斎藤委員）

- ・確かに管理は大変だと思うが、写真やレプリカ展示でもよい。またインターネットで検索すると多少情報がでてくる。中学校内でも学習はできるし、地域の方にお話をしてもらうことも考えられるのではないか。

（菅野委員）

- ・地元で重要性を理解している人や語る人は少ないと思うが、総合学習や生涯学習の中でカリキュラムに入れていくことは大切であり、どう中沢浜ももり上げていくか考える必要がある。

(斉藤篤委員)

- ・ぜひ、細谷委員長に講演講師をお願いしたい。

(細谷委員長)

- ・機会があれば考えたい。

(小松委員)

- ・地元で伝わる昔話を生で聞きたいと思っているが、すでに話せる人が残っていない。古
老から子どもが話を聞くことも学習である。みな若くないので、早急に進めていくこと
が大切。

(斉藤百委員)

- ・子供たちにとっては、なによりも体験が重要。例えば、ドングリクッキーづくりなども
考えられる。

(細谷委員長)

- ・矢じりを作ったり、トチノ実だんごを作ったりなどの体験学習もよい。ぜひ女性会でも
やって欲しい。

(斉藤篤委員)

- ・土器を作って紋様をつくるとか、きて・みて・きいて、深く体験することは理解につな
がる。

(山田教育長)

- ・ぜひ、ソフト面を進めていきたいのだが、文化財関係の教材がない。

(斉藤篤委員)

- ・細谷委員長に執筆いただくなど、できないか。

(細谷委員長)

- ・土器の粘土こね作業は、1時間くらいかかるが、子供たちは飽きない。先生や地元で語
れる人がいないのが問題で、まずは講演からスタートし、同志をふやしていくことが大
切だ。

(事務局)

- ・ソフト的な事業を進めることによって、中沢浜がよいモデルケースになればよいと考え
ている。そのために、どのような補助事業ができるか調べていきたい。
- ・また盛り上げていくための手始めとして、まずは草刈りあたりから進めていければと思
っており、次のステップとして講演会などが開催できればと思っている。

(斉藤篤委員)

- ・そのためには、長期のビジョンが必要だ。

(事務局)

- ・この計画ができたところで、地元説明をしたいと考えている。せっかく事業が進みだし
ているので、この機会にみんなで考え、盛り上げていきたい。

(細谷委員長)

- ・現状は石碑も草に埋もれているので、ぜひ草刈りをして、きれいに見せたいと思う。ちなみに親分の石碑は広田小学校にあり、防災面としての教材である。
- ・地区の中から、活動を発展させて子供たちに伝え、風化させないことが大切だ。

(清水委員)

- ・中沢浜の重要性を理解している人が少ないので、子供や市民に教えるカリキュラムを整え、地域に浸透させなければ発展しない。そのためには今までの資料や発掘をしながら、教育用のカラー冊子をつくり、学校やコミセンなどで配布したい。広田には花園老人クラブもあり広めていけるのではないかな。

(菅野委員)

- ・インターネット情報や既存の郷土史などにも情報はあり、活用できるのではないかな。

(綿谷委員長)

- ・いわゆる副読本で、3年生むけの「わたしたちの陸前高田」があるが、今回は中沢浜に絞った内容でよい。
- ・以前に、先生が個人で郷土史関連書籍を出版していたものが2冊くらいあったようだ。

(山田教育長)

- ・震災後、先生への負担も考慮して〇〇指定校制度はストップし、その他横のつながりもむずかしい状況であるが、郷土史などの資料がどの程度あるか調べてみたい。

(清水委員)

- ・その他、陸前高田市史や広田漁業史などがあつた。ぜひ、編集委員会を立ち上げ、リーフレットをつくり、広田コミセンに配布したい。

(山田教育長)

- ・そのような活動から、場の検討についても盛り上げていきたい。

(斉藤篤委員)

- ・まずは、草刈りから始めて、リーフレットづくりや講演会を通して活動を盛り上げ、リーフレット配布によって周知を深めるといふ土壌づくりでよいのではないかな。

(斉藤百委員)

- ・つくることもよいが、何よりも体験が重要であることも付け加えておきたい。石碑の記載内容を版にするなども勉強になる。

(綿谷委員長)

- ・拓本づくりは、まずその内容から教える必要があるかも知れない。
- ・うまく話しをまとめてくれたので、その内容で今後も進めていただけたらよい。

以上

3. 委員会名簿

所属	職	氏名	備考
広田湾漁業協同組合	代表理事組合長	佐々木 戔	
広田地区コミュニティ推進協議会	会長	齊藤 篤志	
広田町女性会	会長	齋藤 百合子	
広田町第7区	区長	菅野 昌男	
広田小学校PTA	会長	吉田 宏	
広田小学校	校長	松村 仁	
高田東中学校	校長	菅野 次郎	
高田高等学校	校長	横田 昭彦	
(地元有識者)	文化財調査委員長(指導委員兼任)	細谷 英男	委員長
(地元有識者)	市会議員(指導委員兼任)	小松 眞	
(地元有識者)	市会議員	伊勢 純	
(地元有識者)	市会議員	清水 幸男	

(敬称略)

§4 指導委員会開催概要

1. 第1回指導委員会

2014.1.31 14:30~17:00 陸前高田市役所会議室

1. 委嘱状交付
2. 開会(次長)
3. 教育委員会あいさつ
4. 委員紹介
5. 委員長選出
6. 委員長あいさつ
7. 概要説明
 - ・基本構想に関する資料説明(協和コンサルタンツ 佐藤・鈴木)
8. 議事
6. 閉会

出席者:渡辺委員長、熊谷委員、平澤委員、原口委員、楯谷委員、小松委員

【議事要旨】

原口委員

中沢浜貝塚が貴重なのはわかっているが、広域的な視点(国史跡)や地域の関連計画(高台移転や港の整備計画)等を考慮したコンセプトメイキングが必要である。

東日本大震災レベルの津波は縄文時代から何度も経験しているはずだが、それでも住み続ける人々に希望を与えるような公園整備を行うべきである。

また、海との関係が見えない。たまにしか使わない公園になっては意味がない。素晴らしい場所なので、それが分かるようにすべきだ。

小松委員

昔は海岸でカツオが釣れたと聞いている。広田半島の海が豊かだったことが住み続けている理由の一つではないか。

熊谷委員

復興計画はどうなっているのか、お聞きしたい。また年次計画でいうと、本来は史跡公園としての理念を整理した上で、歴史公園と防災公園は同じスケジュールで進めるべきではないか。

大和田アドバイザー

震災前の総合計画では、泊漁港を海の駅として活用する構想があった。震災後は、半島が孤立しないように高所に道路をつくる計画がある。

熊谷委員

新しい道路ができると、入口が変わるのではないか。もう少し広域的に考えた方がいい。

原口委員

中沢浜貝塚の周辺で関連する計画がどう進んでいるのか。それを踏まえて、この場所をどう考えるかが重要だ。他の観光拠点などとの連携も考えられるのではないか。

熊谷委員

公有地化はどの程度進んでいるのか。

事務局

9割程度進んでいる。

熊谷委員

平成11年に保存活用計画をとりまとめて公有化を進めてきたわけだが、その後、事業が止まってしまっている。今回は、史跡整備なのか防災としての整備なのか確認したい。

事務局

まずは防災機能の整備を考えており、その後に史跡整備を進めていきたい。

平澤委員

手順としてどうしていくかの話が混同している。

防災公園であれば、どの範囲の人達が避難するか、史跡整備なら、遺構を確認して保存エリアを設定するなど壊れていく速度をどう遅くしていくかを考えていく必要がある。

防災と史跡整備と相反するという意見もあるが、ここが長く使われてきた意味を考えれば、そんなに矛盾しないのではないか。

遺跡の持つ意味と、安全・安心の場にするという基本理念ができる。

原口委員

津波が来ても住み続けたという意味をアピールしたいところだ。

平澤委員

遺跡が持つ構造とこれからの機能が上手く整合するといい。集落構造をどう把握して、計画に活かすかが重要。壊れそうなものの優先度を考えなくてはならない。

なぜここに防災拠点をつくるのか、ここでないといけないのかを考える。普段から防災公園であることが地域に認知されていることが重要である。

菅アドバイザー

当面必要な整備と、今後の整備は切り離して考えるべきだ。

熊谷委員

平成11年の発掘調査は、本格的な調査ではなく貝層の範囲も確認できていない。

基本的なデータを把握してから計画づくりをすべきだが、史跡調査には膨大な時間がかかる。

熊谷委員

平成11年以降、公有化のために移転していただいた方々もいるため、遺跡整備が優先されるべきであり、防災の話はその次でもよいのではないか。避難階段をつくっても、対象と

なるのは漁港関係者だろう。

山田教育長

市内には300近い遺跡があるが、震災後は、その重要性が以前よりも増している。高田松原の代わりとしても、これまで活用してこなかった遺跡の活用を考えたい。また、市民がその重要性を認識していないので、それを掘り起こして後世に伝えることが大事だ。

また、観光としても人を呼べるものになりたいので、他の遺跡との連携などについても、ぜひアドバイスいただきたい。

平澤委員

防災的な位置づけは、ワークショップなど地域の視点だけでなく、陸前高田市としての観点が必要だ。

原口委員

中沢浜貝塚は、高田松原以前からあるものだ。価値を高めるコンセプトを固めて、調査を行っていくべきだ。

山田教育長

ワークショップでは、地権者の方からも魅力的な計画が進められるのであれば、喜んで協力するという発言をいただいている。平成11年の保存管理計画策定の後、進んでいないが、今回は成果があるようにしたい。

小松委員

発掘調査をぜひやって欲しいし、今後も活用していきたい。

東日本大震災では孤立してしまった経験を踏まえて、備蓄できる施設も必要と考える。

熊谷委員

屋外でも避難所として位置づけすることは可能か。

大和田アドバイザー

屋外でも指定は可能。対象地を一時避難所には指定していないが、適地ではある。避難階段・避難路はあったほうがよい。

小松委員

北海道の洞爺湖へ行ったことがあるが、避難所兼用のジオパークとなっていた。そのようにできたらいい。

熊谷委員

息子が被災した経験から言うと、一時避難所は、とりあえず一晩でも過ごすことができる場所で、その後に行くのは公民館などの建物である。

遠辺委員長

史跡整備はやらないという方向か。

熊谷委員

発掘調査は長期間かかるが、今回は、史跡整備を頓挫させるわけにはいかない。埋蔵文化財が復興の支障になったという話はないと聞いている。

原口委員

防潮堤ができるとすれば、その内容によって計画は大きく変わる可能性もある。周辺の復興計画と合わせて、考える必要があるだろう。

大久保次長

堤防や海道についても、具体的なものは決定していない状況だ。また、防災施設としての位置づけも、流動的な状況だ。

平澤委員

現状では第1種区域と2種区域を歴史と防災に分けて土地利用計画をつくることは理解できるが、長いスパンで考えて、場所や史跡の意味を理念として組み立て、活かしていくことが必要だ。市民に元気を分けられる事業にして欲しい。

原口委員

コンセプトで場所や史跡の意味を示すことは重要。

熊谷委員

発掘をしながら基本的なデータを集めて、それを市民にも公開しながら今後もワークショップなどをやっていければいい。

原口委員

ボーリングなど最低限の調査をしておいた方がよい。今は科学的な調査ができる。

また、縄文時代の土地の高さは今と違うので、それも考慮した方がよい。

熊谷委員

まずは、海岸から山地までの詳細なデジタル地形図が最低限必要だ。

平澤委員

現状では史跡から何がでてくるかわからないので、発掘調査前の予備調査をできるだけ早急に進めるべきである。

渡辺委員長

大船渡市の史跡のやり方も参考にして欲しい。パンフレットを自由に取れるようにしてある。そういったやり方で認知度を高めていくことが重要。

熊谷委員

確かにパンフレットを作成することも必要だ。そこに他の史跡との連携を入れるといい。

平澤委員

ワークショップなどの場で、この場所に関わるというきっかけになったことは重要。

原口委員

詳細な地形図、ボーリングデータが最低限必要である。ちなみに発掘には時間がかかるので、その調査内容について、仮設のガイダンス施設等を設置して、市民の情報提供することで地域との関わりや事業進捗の公開にもつながる。

平澤委員

将来のきっかけとできるようにしたい。せっかくのこの機会に動き出すことが重要だ。

渡辺委員長

水産日本の基礎をつくったのは縄文人であり、後世に伝えていきたい。
ただし計画を進めるためには、行政がコントロールタワーになる必要がある。

事務局

現時点で、出来ることと出来ないことを考慮しながら進めていくことになると思うが、基本構想としての理念を再整理したい。

次回は、2月24日14:30からを予定する。

以上

2. 第2回指導委員会

2014.2.24 10:00~12:00 陸前高田市役所第6会議室

1. 開会

2. 教育委員会あいさつ

3. 委員長あいさつ

4. 概要説明

・基本計画に関する資料説明(協和コンサルタンツ 鈴木)

5. 議事

6. 閉会

出席者: 渡辺委員長、熊谷委員、平澤委員、原口委員、補谷委員

【議事要旨】

熊谷委員

先週の検討委員会ではどんな話が出たのか。

事務局

今ある中沢浜貝塚に関する情報をまず集めてみることに、また総合学習や生涯学習などでできることから始めたいという話があった。

原口委員

平成27年度までの予算規模は？

事務局

予算計上はしていない。D-20は史跡整備には使えないため、防災拠点としての整備となる。今回で言うと、避難階段、あずまや、かまどベンチ、調整は必要だが防災倉庫など。

原口委員

仮設的なガイダンス施設は？仮設でも何か拠点があった方がいい。

事務局

ガイダンス施設は別枠になる。また、どう管理していくかも課題になる。

原口委員

維持管理費の予算はでないのか。

事務局

京都市の街区公園では、公園愛護会に報奨金を出して依頼している例もある。

平澤委員

それは、公園管理の通常の予算ではないか。

熊谷委員

史跡管理として草刈りの予算はないか。

事務局

草刈り予算はある。やり方によっては、できるのではないかな。

原口委員

仮設の展示など、何か拠点が必要だと思う。何か形があって、こういった計画図が展示してあれば、地域にも理解いただけるのではないかな。

熊谷委員

計画対象地は、史跡範囲のみか。史跡範囲には、拠点施設はそぐわない。隣接してガイドンス施設を設けるお金を用意するなどが通常よくある例だ。隣接地を購入する費用は出るのか。

事務局

復興を進めている最中で、市街地の真ん中を市で買い上げるのはどうか、という話もある。公民館を使わせてもらえないかという話もしているが、高齢化が進んでいるため、どうか分からない。

熊谷委員

発掘されたものを置いておいて、盗難にあった場合の責任問題などという話も検討委員会では出ていた。

原口委員

防潮堤 TP12.5 は、ほとんど展望台の高さになる。海を見るのに、視線の中には必ず入ってくるだろう。実際には盛土になってつながってしまうのではないかな。その部分を先行して調査を行うなどが必要だ。

熊谷委員

平成 27 年度までの暫定的なものを優先してどう考えるか。史跡の範囲は、昭和 9 年の指定時と変わらずにきている。当時は筆でやっており、遺跡の範囲を特定したものではない。遺跡範囲を確定した上で、付帯施設をどうしていくか、長いスパンで考える必要がある。ここでは地形的な段差と階段をどう設置するかが重要。階段は土をいじるのは難しく、仮設のものにならざるを得ない。

事務局

緑化ブロックとその上部にも段差があり、どう設置できるか検討する必要がある。

平澤委員

盛土の上に、構造物をつくっても、構造的に持たないのではないかな。

原口委員

階段のルートを北側に変えれば、スロープでできる可能性もある。

平澤委員

東日本大震災では、実際どう避難したのか。

事務局等

階段を予定している位置から、ロープで引き揚げたと聞いている。

平澤委員

史跡公園整備事業の理念と歴史防災公園の理念の位置づけは、どう関連しているのかわりにくい。(2)「①事業の方向性」「②事業の長期的ビジョン」にしてはどうか。

中沢浜貝塚の活用を促進し、被災にあたって津波被害を記憶する装置が必要。WS で花見したいなど意見があったようだが、日常的に親しまれていなければ、地震があったからと言って避難しない。

「私たちの史跡」として地元の人たちはどういう姿を望んでいるのか。外から来てもらって交流したいのか。どこまでどういうレベルで考えられているのか、慎重に考える必要がある。

第一段階整備 歴史防災公園、第二段階整備 史跡公園などの整理が必要だ。

歴史防災公園は、D-20 で主に防災的な部分を付加するが、そこには津波の被害の体験を記憶する装置が必要。

東側は、まとまった整備になる。西側は、貝層。ベースになる造成はどこまでやるのか。

事務局

園路についても、詳細な地形図を整理したのち詳細な検討が必要と、課題として報告書に取りまとめの予定。

平澤委員

「当時の植生や地形を復元し」と資料にあるが、何をもちて当時のものとするかも課題。バリアフリー園路となっているが、ユニバーサルを目指して、主動線のみ仮に整備する。あまり造成を加えるということではなく、今ある地形に沿って整備する。

平成 27 年までの間に調査というのは、難しい。継続して動いているということが、地元で実感できるようにすれば、理解が進む。

事務局

史跡での地元との連携の事例はあるか。

平澤委員

イベントの開催などがあげられるが、場所を提供するだけでは難しい。

史跡だからといって、学術的にならなくてもいい。それよりも貝塚という名前が付いていて、来ればその時々に応じて、それぞれの理解レベルで理解を深めていくことが重要。すべての人に貝塚の正確な理解を押し付ける必要はない。

将来にわたって受け継がれるべきいいところだな、ということが分かってもらえたらいい。それが防災機能と結びついている。縄文時代の関連情報に踏み込みながら、場の雰囲気はどう演出していくか。特効薬のようなアイデアはないが、継続して行われることが大事である。

史跡整備はオープンしたあと、活動が行われず、誰も行かないというところも少なくない。地域の象徴であり避難場所であるということが、地域にインプットできるようなことが重要だ。

事務局

生涯学習・総合学習という話が委員会としても出ていた。

原口委員

具体的に何をしていくかが非常に難しい。現地を見ると前の住民の思いが残ったままだ。今回それをどこまで払しょくするか。上をどこまでいじれるか。地域で集まったり、祭りができたりといった場所が必要。

平澤委員

それは、東側でできることになればいい。

熊谷委員

実際、道路の東側で削られていないところがある。防災広場のあたり。

原口委員

駐車場がないから、歩いて行くしかない。少なくとも歩道みたいなものが、この2年間で必要。そして仮設的にアピールできるもの。

平澤委員

防災広場に仮設施設をつくって、仮に10年くらいは使う。本格的なことを考えると難しい。長く練けることが大事で、平成27年までの事業は、頭出しといった位置づけだ。

熊谷委員

地元から本気でやってくれという期待がある。ある程度のインパクトがある方がよい。

原口委員

ログハウスなどおしゃれな仮設を考えた方がよい。予算があれば、お金をかけた仮設。

平澤委員

仮設ならばお金はかけられない。盛土上のプレハブで、その外装を変えるくらいだ。

原口委員

仮設的な盛土をして駐車場でも整備できないのか。

平澤委員

事業として、撤去するようなものを設置できるかどうか疑問だ。単費にならざるを得ないのではないか。一般的に考えて難しい。

原口委員

動かせるようなものにするという考え方はどうか。電気は自家発電にして。

平澤委員

市では復興でどう生活を改善していくか考えている中で、先行して市が土地を所得するとは考えられないという話があった。暮らしの拠点を探したいという話もあり、30~40年ものものを考えれば、史跡の外に設置することになる。

原口委員

それには時間がかかる。この2年でできそうなことを考えるべきだ。

平澤委員

東側はまとまって整備ができるので、そこにきちんとしたものを作る。

原口委員

貝塚の状況は、よく分かっていないということだったが、どの程度なのか。

熊谷委員

見込みをつけるための情報すらない。

貝塚ができる部分というのは、集落の中心より外れた斜面にある。真ん中は居住域などが多い。

手をつけるのなら、道路の東側。西側は段差をどうするかと解消しないと、避難後に崖から落ちてけがしたではまずい。

平澤委員

盛土が軽微であればいいが、段差も相当あり、相当量の盛土が必要だ。

熊谷委員

縄文時代には、フラットであったものと考えられる。

細谷委員

現在の地形は、危険が高い。そのあとの利用をどうするか。

平澤委員

将来的な本格的な調査体制を整えることを考えると、あれだけの盛土をしようとすると、拵掘ししないと同義だが、思い切って盛土してしまうのも手かもしれない。10年くらいはあきらめるといった覚悟が必要だが。

渡辺委員長

研究者として遺跡として理解しようとする場合は、範囲の真ん中にはそんなに問題にならないのではないか。

平澤委員

史跡整備エリアは、草刈りの安全性もあるが本格的な行為はできないのではないかと。

原口委員

防潮堤の整備をするときには、盛土をするために本格的な調査をやらざるを得なくなる。

事務局

防潮堤や県道整備の具体的なスケジュールは決まっていない。

熊谷委員

北側のコンクリートの段々になっているところは、隠すなどしないとならない。防潮堤ができれば真ん中の避難路は意味を持たなくなるのでは。

原口委員

防潮堤の整備には時間がかかるため、それまでの間に使う避難階段は必要だ。

結果として、一時的な利用になるかもしれないが、事業としては恒久的に使うことを前提にする必要がある。

例えば、避難路をつなぐ動線だけ確保して、今後検討のために入らないようにするという

整備もある。

貝塚は縁切部の取扱いが重要で、今回でどこまでできるか。防潮堤の部分の扱いも気になる。

細谷委員

防潮堤は12.5mだとすると、すごい高さだ。今まであった住宅地はなくなる。せつかくの景観はなくなってしまう。

原口委員

防潮堤を貝塚にすりつけてもらえればいい。

平澤委員

そこまでできるのであれば、前面はかつての姿を再現するくらいにしてもよい。

細谷委員

防潮堤がなければ避難階段は意味があるが、できたらどうなるか。

原口委員

今後の予定は、来年に基本・実施設計となっていて再来年度に工事ということでしょうか。

平澤委員

平成26年度には事業は一部着手しないか。

事務局

計画が決まれば、前倒しでやることも考えられる。

平澤委員

1年間でやれることは限られている。来年度早々に、測量図を作ることが必要だ。

原口委員

どこならやっついでいいか、という大まかな方針だけ決めないといけなだろう。

その判断ができるのかどうか。

事務局

それを概ね決めて、文化庁と協議したい。

熊谷委員

文化庁が判断する上で、史跡としての価値が考えられる場所は、調査を踏まえて、整備を行う。盛土がどこまで許されるかも難しい。削られてしまっているところがあるので、盛土をして、防災的な機能を付加していく、ということしかできない。

平澤委員

将来的な事業の関係を知りたい。盛土をして傷つけないということであればいいが、H28からは、史跡整備ビジョンを示している。H28に盛土をはがすの？ということになる。H28からやろうとしていることと、今回やろうとしていることの整理が必要。

平澤委員

なるべく触らないで、あとの判断にゆだねられる場所を増やす。

原口委員

判断するための調査をH26はじめにできるかどうか。

平澤委員

できても、深さの調査程度ではないか。

遺跡の内容は確認できない。遺構面に影響を与えないという調査を数か所程度。

熊谷委員

候補地を中心にやっていくことになるだろう。

熊谷委員

南側の避難階段の場所は、遺跡がありそうな場所だ。

平澤委員

長年の経験からの直観的な判断だろう。ただ実際には、どこにどの程度、どのくらいの密度で入っているかを、何年か使っても調査しなければならない。

原口委員

H26は最低限の調査で、とりあえず大丈夫という場所に、看板設置などもできればいい。

平澤委員

史跡指定地の隣接地（海沿い）は、私有地か。

事務局

私有地だが、高台移転として、市有地になる可能性も高い。

熊谷委員

道路の下あたりにも遺構がある可能性はあり、指定地もできることなら追加したいくらいだ。

詳細なデジタルの地形図を作って、改変されている部分とそうでない部分、宅地の部分が実際にどうなっているかを判別したい。

施設整備も並行してやっていって、防災公園としての整合性を図っていく必要がある。

H28以降に全部やることになっているが、H26・27も継続して、史跡公園としての整備内容など史跡と防災の両立を並行して検討していく必要があるだろう。

D-20の事業のなかで、地形を確認する、ピットの掘削と遺構の位置等の確認はできるだろう。これを受けて、史跡公園の基本計画に生かしていく。

27年度までに地元の人が動き始めたな、と感じてもらえるとよい。

平澤委員

地元の人々が、自分たちの場所として活動をし始めればいい。

熊谷委員

いろんな情報を提示していくということを並行してやっていくことが重要。

平澤委員

工事年度が1年しかないので、秋くらいまでに基本設計が固まらなければならないだろう。市全体の復興事業の中で、ここにそんなに手間や時間はかけられないだろう。かえって中沢浜貝塚自体の印象が悪くなる。となると、あまり手を加えない方法でやった方がいい。

地形図は速攻で発注してもらって、6月頃には地形図ができあがるようにしてほしい。

熊谷委員

現地地形に沿って、場の使い分けは提示すべきだ。

平澤委員

遺構の可能性が高いところは、しばらく入らないようにした方がいい。階段が相当あり、手がかかる可能性が高いが、あまり手がかからない整理とすべきだろう。

渡辺委員長

決定的な結論は出せそうにないが、今日の話をもとめてもらえないか。

事務局

まずは早々に地形図をつくり、自然地形と人工改変された地形を識別し、人工改変された場所が防災公園としての整備を検討したい。ただし史跡整備も念頭に置きながら、平成27年までの整備を考えることとする。

また、避難階段は、場所の重要性と漁港からの避難動線を踏まえた上で、ルート変更も含めて考えていきたい。

ハード整備と並行して、検討委員会でも議論のあったソフト面での事業も進めていければと考えている。

平澤委員

遺跡と人をつなぐことが重要。

原口委員

そのためには拠点施設が必要で、プレハブはD20事業で設置して欲しい。

渡辺委員長

子供の体験学習は、東側での実施ということになるのか。

事務局

そうだと思う。

熊谷委員

体験学習については、女性会の代表から出てきた意見だ。

渡辺委員長

具体的な体験学習は、どういうことをイメージしたいのか。

熊谷委員

土器づくりなど。

渡辺委員長

どこでもやっているが、粘土は買ってくることになる。お金がかかって大変だ。中沢浜らしい体験ができるといい。

平澤委員

そのためには、とにかく調査が必要。

渡辺委員長

アイヌは若い人の教育で、漁のためのトレーニングをやったりする。そういった体験学習もあるだろう。

原口委員

ブランド化ができればいい。

細谷委員

漁労に関しては、お年寄りの話を聞くというのもいい。

以上

3. 委員会名簿

所属	職	氏名	備考
名古屋大学	名誉教授	渡辺 誠	委員長
奈良文化財研究所	文化遺産部 景観研究室長	平澤 毅	
盛岡大学	教授	熊谷 常正	
大阪市立大学大学院	准教授	原口 強	
(地元有識者)	文化財調査委員長	細谷 英男	
(地元有識者)	市会議員	小松 眞	

(敬称略)